

「21世紀を担う、心豊かで創造性にあふれたエンジニア」を育成するために！

平成23年度

在学生・卒業生・企業・教職員

KTC総合アンケート調査結果

[報告書 **抜粋**]

金沢工業高等専門学校

平成23年度KTC総合アンケート調査結果について

KTC総合アンケートは、学生の真摯な回答が得られるにつれ、本校FD活動の道具の1つとしてその重要性を増している。同時に、アンケート活動に関して対応する学校側の責任が増してきていることを深く認識している。評価のみ求めて改善は次回しと言うやり方は、この種の活動の最も忌みすべき行動である。KTC教育評価委員会は、本アンケート結果と各種評価結果を総合的に分析し、本校の進むべき方向を模索し、必要な具体的施策を提言することとなろう。

高専は、社会からは即戦力養成の場として、学生からは知識吸収や日々の楽しみの場として、並びに、教職員にはなりわいと個人の幸せ追及の場として存在している。いずれかの要素に偏重することは、学生教育上問題を発生させることになる。私学が公立学校と異なる点は、この学校が或る「理念」の下に存在し、それを追及する人間の組織として存在し、それを求める学生が集まっていると考えることができることである。前年同様、今年も学生の本校に対する印象度が向上したことは嬉しいことである。学生募集は低迷しつつも向上しており、教職員は多忙感や業務集中を訴えながら頑張っている。限りある資源を大切に改善を進める必要がある。アンケートの総合判定結果や多くの意見は、上記観点に立って評価されるべきであり、各種の提言は明日への改善策として活用されなければならない。

本校は、学校・教職員、保護者、学生の三位一体となった教育改善活動を行ってきた。この結果を今後の学校改革に活用して行きたい。結果の総括と分析にご協力賜ったアイポイントに感謝申し上げます。

金沢工業高等専門学校
校長 山田 弘文

全体概略

■調査の目的

本調査は下記の目的に従って実施した。

- 本調査は金沢高専の現在の状況を把握し、今後の教育改善を考えるための情報を収集することを主目的とする。
- この調査企画では、在学生と教職員に金沢高専の評価を聞き、各々の意識の違いを見いだすことで、今後の学校づくりを考えるためのヒントを得ることも目的とする。
- 今回は卒業生、企業担当者への調査も実施しており、各属性の意見の差も確認している。
- 本調査は平成15年度から続いており、今回で9回目となるが、平成20年度から内容を大きく見直している。
- 平成17年度の調査までは年度末(2月初旬)に実施しており、平成18年度と平成19年度は9月中旬の実施に変更したが、H20年度からは年度末の実施に戻している。

■調査の概略

項目	内容	
調査概略	調査票による自記入式調査とし、全て無記名式とした。	
総回答数	698サンプル	
調査方法と回収数	1年生～5年生	・有効回答数 1年生:134サンプル、2年生:113サンプル、3年生:63サンプル、4年生:91サンプル、5年生:98サンプル ・各クラスで配布し、回収した。(配布&回収:平成24年2月16日)
	卒業生	・有効回答数 73サンプル ・本来は5年に1回実施する予定であったが、今回は平成20年度に次いで実施した。 ・郵送にて発送し、返信用封筒にて回収した。(配布:平成24年2月20日、回収:平成24年3月10日)
	教職員	・有効回答数 55サンプル ・各教職員に配布し、回収した。(配布:平成24年2月16日、回収:平成24年2月25日)
	企業担当者	・有効回答数 71サンプル ・本来は5年に1回実施する予定であったが、今回は平成20年度に次いで実施した。 ・郵送にて発送し、返信用封筒にて回収した。(配布:平成24年2月20日、回収:平成24年3月10日)
調査主体	学校法人 金沢工業大学	
集計	有限会社 アイ・ポイント	

■集計に関して

分野	注意点
加重平均に関して	<ul style="list-style-type: none"> 各調査項目を属性毎に比較するため、加重平均値を多く活用している。 今回の調査では、選択肢を「そう思う～どちらかといえばそう思う～どちらかといえばそう思わない～そう思わない」などのように4択式で構成した。なお、「あてはまらない、分からない」は無回答として処理した。 加重平均は上記の選択肢に、+10点、+5点、-5点、-10点を掛けて回答者数で除して算出した。従って、最高点が10点で最低点がマイナス10点となる。 「あてはまらない、分からない」「無回答」は回答者数に含めていない。
グラフに関して	<ul style="list-style-type: none"> 折れ線グラフは主に時系列変化を見る際に利用されるが、この報告書では加重平均を属性毎に比較する際に本来の棒グラフでは見にくくなるため、折れ線グラフで表現しているものもある。
呼称に関して	<ul style="list-style-type: none"> 学科構成が平成21年度の1年生から「電気電子工学科」「機械工学科」「グローバル情報工学科」となっており、これまでの「電気情報工学科」「機械工学科」「国際コミュニケーション情報工学科」とは異なっているが、学科別集計、部会別集計では同系列の学科を合わせて集計を行った。 学科別に時系列の集計を行う場合には、同系列の学科を合わせて、「電気情報・電気電子」「機械」「国情・グローバル」という3つの学科として比較を行った。

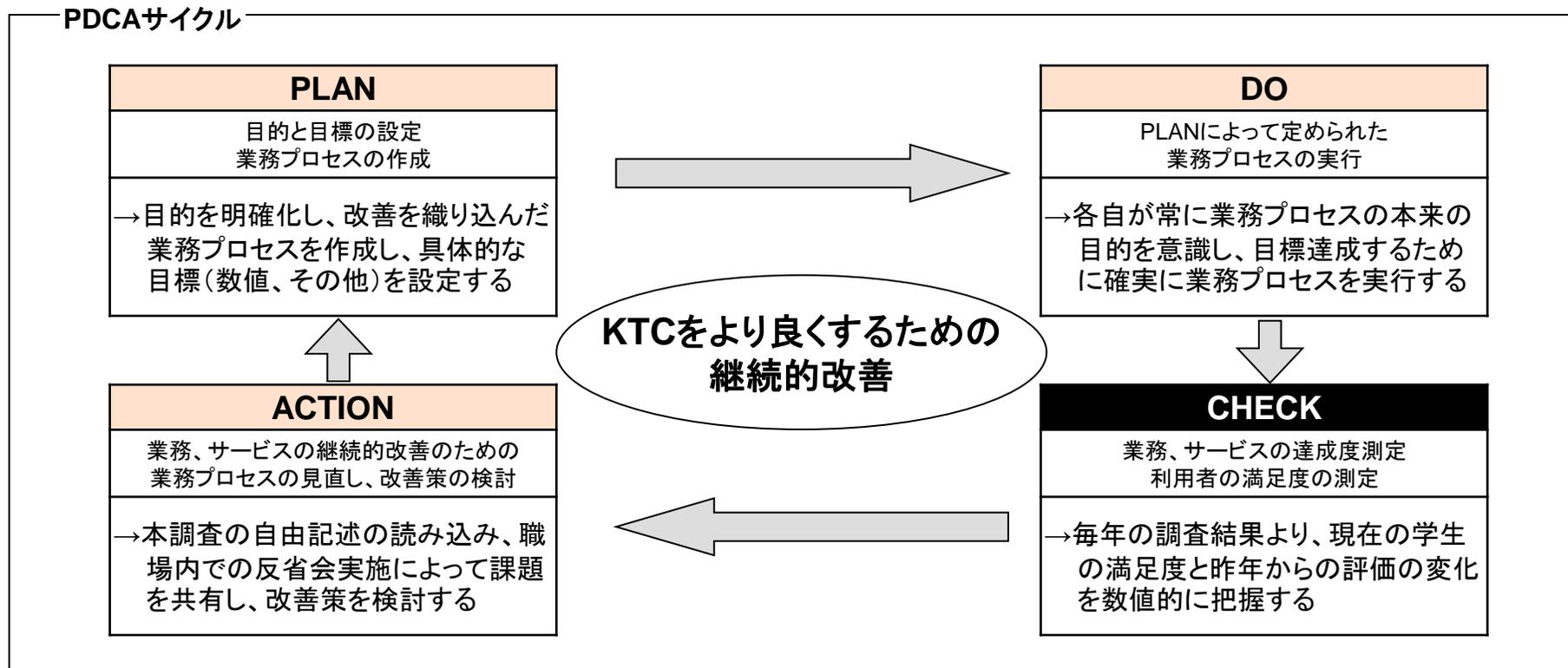
■回答者数に関して

学年	平成23年度 回答者 (今回分)	平成22年度 回答者	平成21年度 回答者	平成20年度 回答者	平成19年度 回答者	平成18年度 回答者	平成17年度 回答者数	平成16年度 回答者数	平成15年度 回答者数
1年	134人	115人	81人	110人	92人	121人	122人	135人	140人
2年	113人	79人	104人	105人	108人	117人	130人	135人	127人
3年	63人	80人	92人	95人	88人	113人	113人	98人	113人
4年	91人	102人	103人	103人	114人	121人	113人	109人	121人
5年	98人	99人	96人	111人	124人	105人	101人	116人	129人
卒業生	73人	0人(実施せず)	0人(実施せず)	77人	0人(実施せず)	0人(実施せず)	0人(実施せず)	0人(実施せず)	66人
教職員	55人	62人	53人	59人	52人	50人	48人	56人	50人
企業担当者	71人	0人(実施せず)	0人(実施せず)	36人	0人(実施せず)	0人(実施せず)	0人(実施せず)	0人(実施せず)	65人
合計	698人	537人	529人	696人	578人	627人	627人	649人	811人

PDCAサイクルに関して

■PDCAサイクルの中での本報告書の位置づけ

本報告書は下記のような業務改善の流れの中で、下記のようにCHECKステップに位置づけられる。



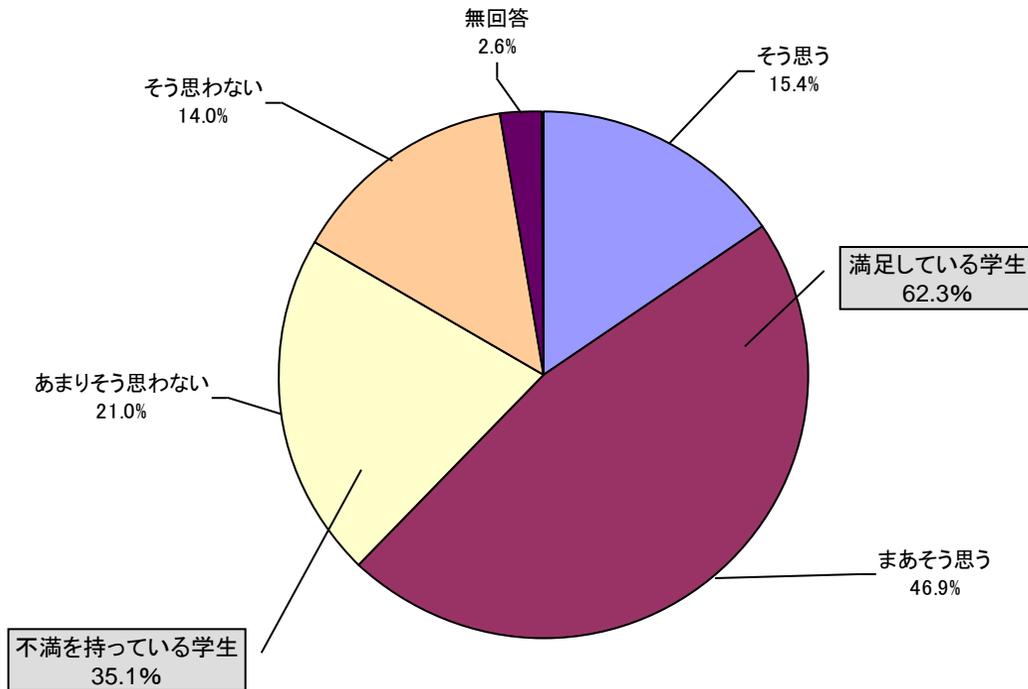
- 今回の調査によって得られた「学生の満足度」は、上記「PDCAサイクル」の中の「CHECKステップ」に相当する。
- この報告書で得られた結果はあくまでもアンケート結果を統計的に分析し、その結果に妥当と思われる理由をつけ加えた「仮説」であり、その検証と活用は今後の「ACTIONステップ」で行うことになる。
- また、ここで得られた数値的な結果を解釈し、金沢高専の改善に役立てるのは、実際に現場で教育や学校運営に携わっているメンバーが行うことであり、この報告書はその参考と位置づけられるものである。
- 「PDCAサイクル」は一時的なものではなく、継続的な改善を目指すものである。従って「昨年と比較して評価がどう変化したのか?」「自らが設定した目標は達成したのか?」といった変化を見ることが主眼となる。
- 本報告書は、上記のような位置づけを継続していくことで、金沢高専の改善に資することを目的としている。

金沢高専の総合的な満足度

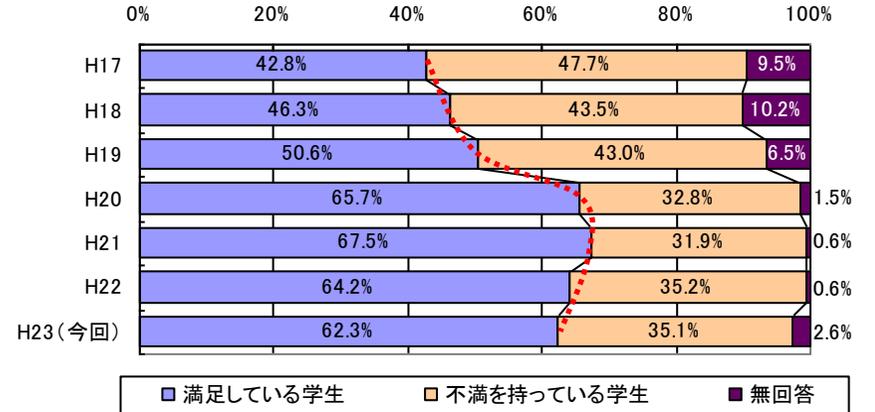
■本年度の総合的な満足度

- 「総合的に見て金沢高専に満足していますか？」という問いに関しては、15.4%が「そう思う」、46.9%が「まあそう思う」であり、合わせると62.3%が満足と答えており、不満を持っている学生は35.1%という結果であり、満足している学生の方が27.2ポイント多かった。
- 年度別比較を見ると、「満足している学生」の割合はH22より1.9ポイント減少しており、前回に引き続き前年を下回る結果となっていた。平成20年と平成21年には満足度は非常に高い状態を維持していたが、今回はH20年以降で最も低い結果となった。

■総合的に見て金沢高専に満足していますか？（在校生のみ）



■金沢高専の総合的満足度 年度別比較



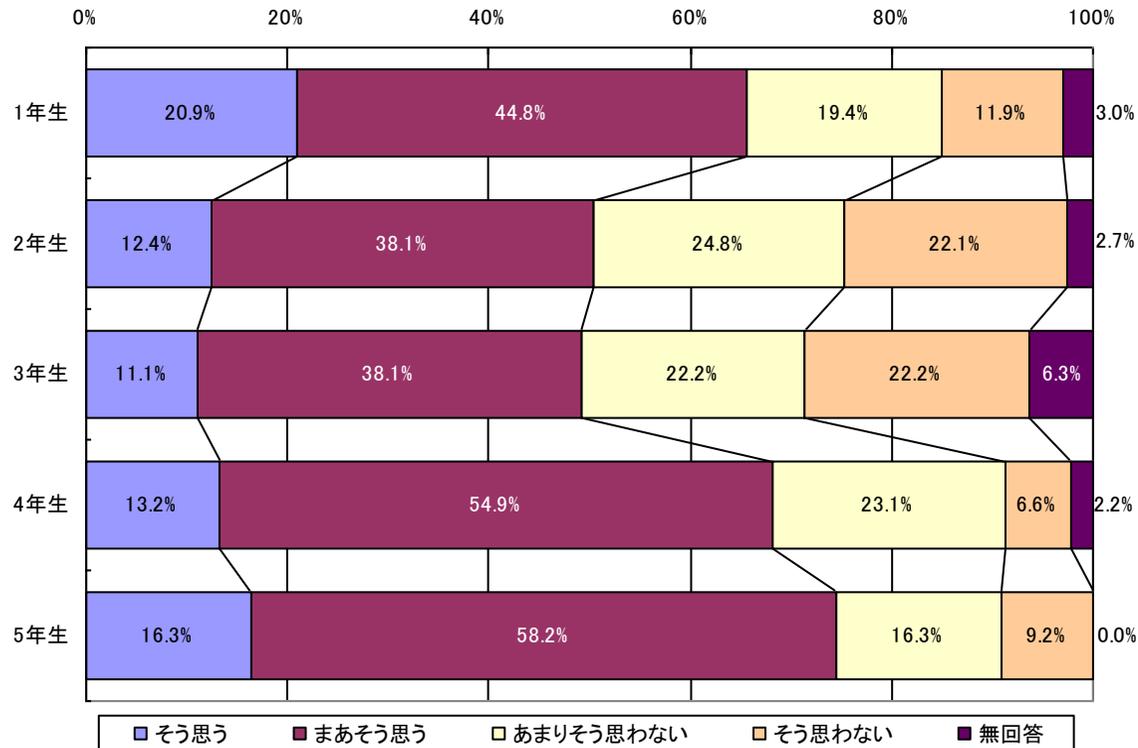
■金沢高専の総合的満足度 年度別内訳

年度	満足している学生の合計		不満を持っている学生の合計
H17	42.8%	<	47.7%
H18	46.3%	>	43.5%
H19	50.6%	>	43.0%
H20	65.7%	>	32.8%
H21	67.5%	>	31.9%
H22	64.2%	>	35.2%
H23(今回)	62.3%	>	35.1%

■総合的満足度の学年別比較

- 「総合的満足度」を学年別に比較し、「そう思う」と「まあそう思う」の合計で比較すると、「5年生」の満足度が最も高く、74.5%が満足と答えており、不満を持っている学生は25.5%にとどまっていた。
- 上記に次いで「4年生」では68.1%、「1年生」では65.7%が満足と答えていた。今までは「1年生」の満足度が高めであったが、今回は「4年生」「5年生」の方が高くなっていた。
- 一方、最も満足度が低かったのは「3年生」であり、「そう思う」と「まあそう思う」の合計は49.2%であった。次いで「2年生」が50.5%であり、この2学年はほぼ半数が高専に対して不満を感じているという結果となっていた。

■金沢高専の総合的満足度 学年別比較



■金沢高専の総合的満足度 学年別内訳

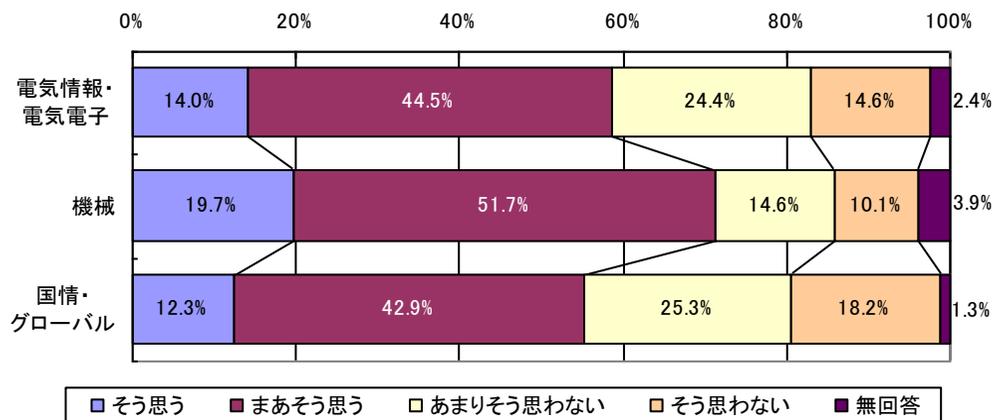
学年	満足している学生の合計		不満を持っている学生の合計
1年生	65.7%	>	31.3%
2年生	50.5%	>	46.9%
3年生	49.2%	>	44.4%
4年生	68.1%	>	29.7%
5年生	74.5%	>	25.5%

すべての属性で「満足」の割合が「不満」を超えた

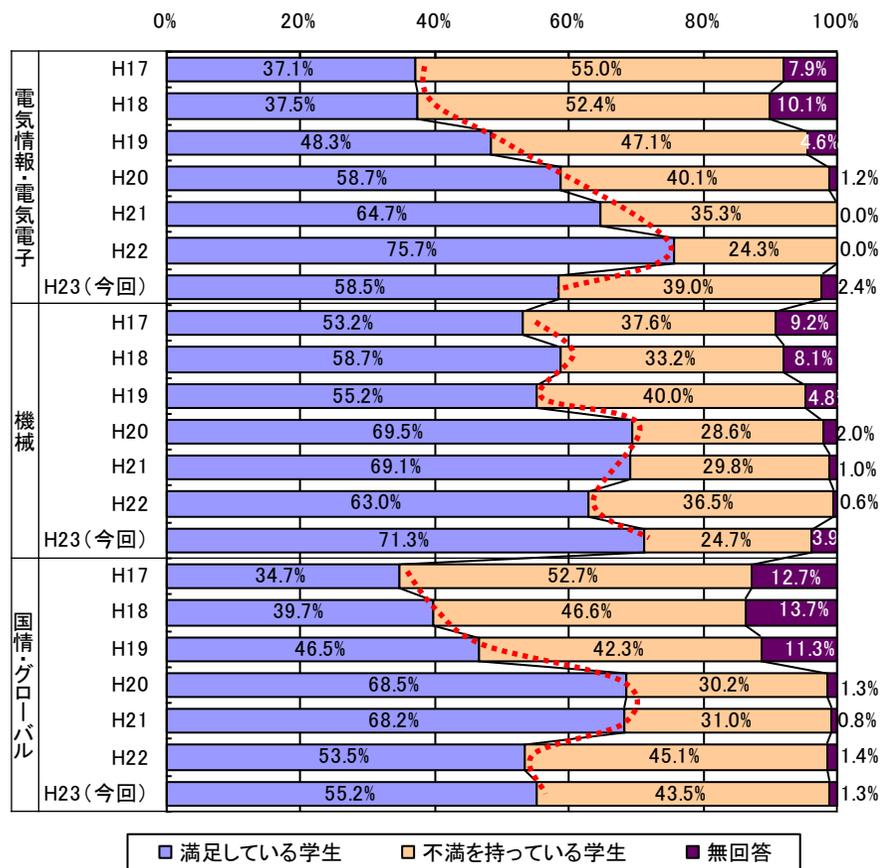
■総合的満足度の学科別比較

- 総合的な満足度を学科別に比較したところ、「機械」の満足度が最も高く、「そう思う」と「まあそう思う」の合計は71.3%であった。また、「電気情報・電気電子」では58.5%、「国情・グローバル」では55.2%であり、全学科共に満足している学生の方が多かったが、「機械」の満足度の高さが目立っていた。
- H17からの年度別の変化を見ると、「電気情報・電気電子」はH22までは継続的に満足度が増していたが、今回はH22を17.2ポイント下回っていた。「機械」はH20に満足度が上がり、H22にやや低下したものの高い状態が続いていた。「国情・グローバル」はH20とH21には満足度が高かったものの、H22以降は低い状態が続いていた。
- これらを見ると「機械」は年度によって学生群が入れ替わっても満足度が高い状態を維持していると言えそうである。

■金沢高専の総合的満足度 学科別比較(在学生のみ)



■金沢高専の総合的満足度 学科別・年度別比較



■金沢高専の総合的満足度 学科別内訳

学年	満足している学生の合計		不満を持っている学生の合計
電気情報・電気電子	58.5%	>	39.0%
機械	71.3%	>	24.7%
国情・グローバル	55.2%	>	43.5%

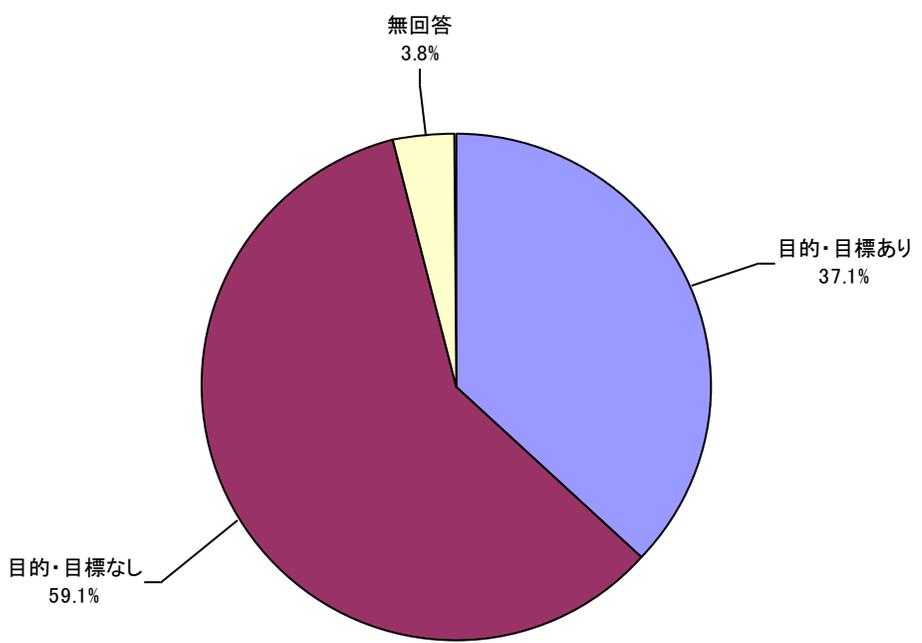
全学科共に満足している学生の方が多い

目的・目標に関する意識に関して

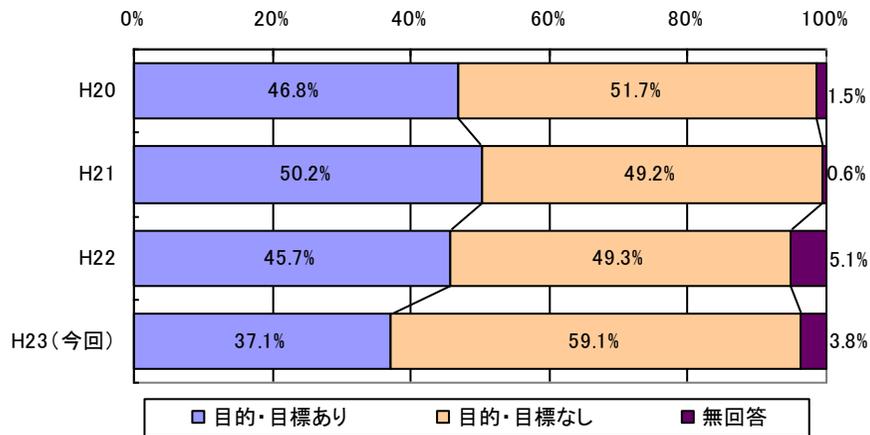
■在学中の「目的・目標」の意識

- 「高専生活を送る上で何らかの目的・目標を持っていますか？」という質問に対しては、「目的・目標あり」が37.1%、「目的・目標なし」が59.1%であり、残念ながら6割の学生が「目的・目標」を持たないまま学生生活を送っていることが分かった。
- H20年からの年度別の比較を見ると、H20からH22までは5割前後の学生が「目的・目標あり」と答えていたが、今回はH22を8.6ポイント下回っており、やや「目的・目標」を見失っている様子がうかがえた。

■在学中の「目的・目標」の意識



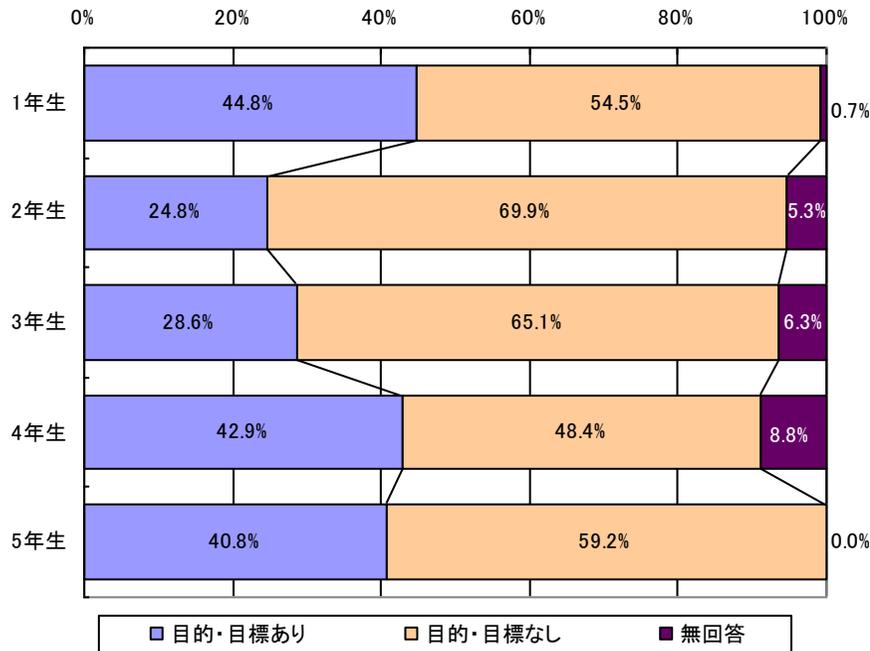
■在学中の「目的・目標」の意識 年度別比較



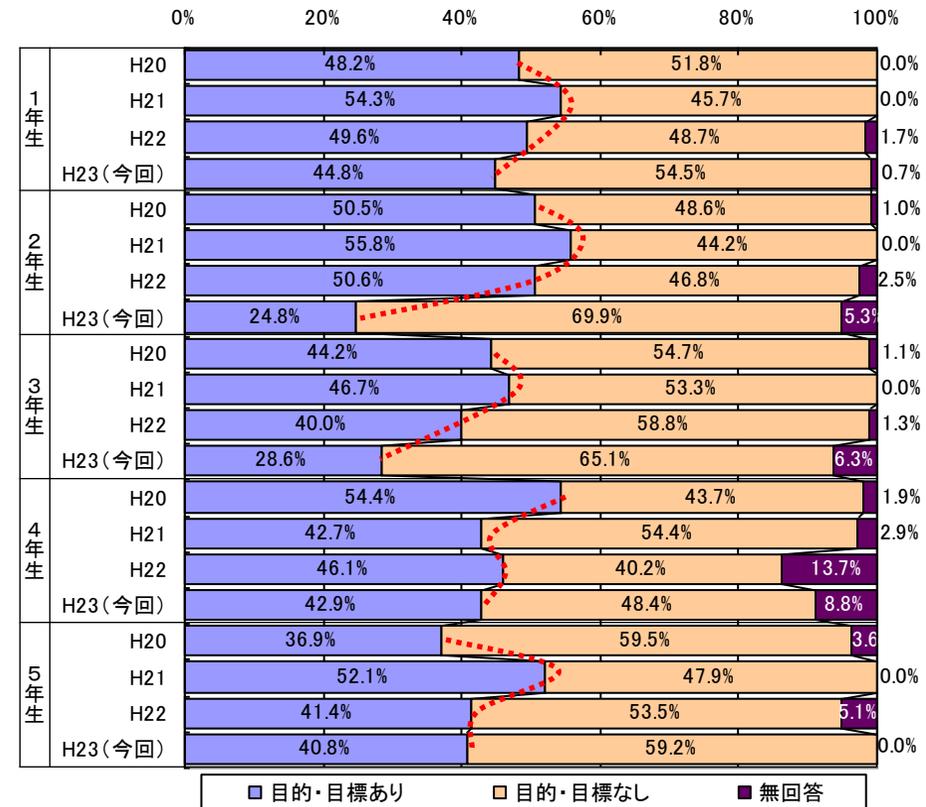
■「目的・目標」の意識の学年別比較

- 「目的・目標」の意識を学年別に比較したところ、「目的・目標あり」は「1年生」が44.8%で最も多く、次いで「4年生」(42.9%)、「5年生」(40.8%)と続いており、この3学年は似た傾向であった。そして、「3年生」は28.6%、「2年生」は24.8%であり、この2学年は「目的・目標あり」という学生の少なさが目立っていた。
- 学年別にH20からの年度別比較を行うと、「1年生」は以前との差はそれほどなく、「4年生」はH20のみ、「5年生」はH21のみが「目的・目標あり」が多かった。それ以降は大きな変化は見られなかったが、「2年生」と「3年生」は前回と比べて「目的・目標あり」の割合が大きく下がっており、両学年共にこれまでで最も少なくなっていた。

■在学中の「目的・目標」の意識 学年別比較



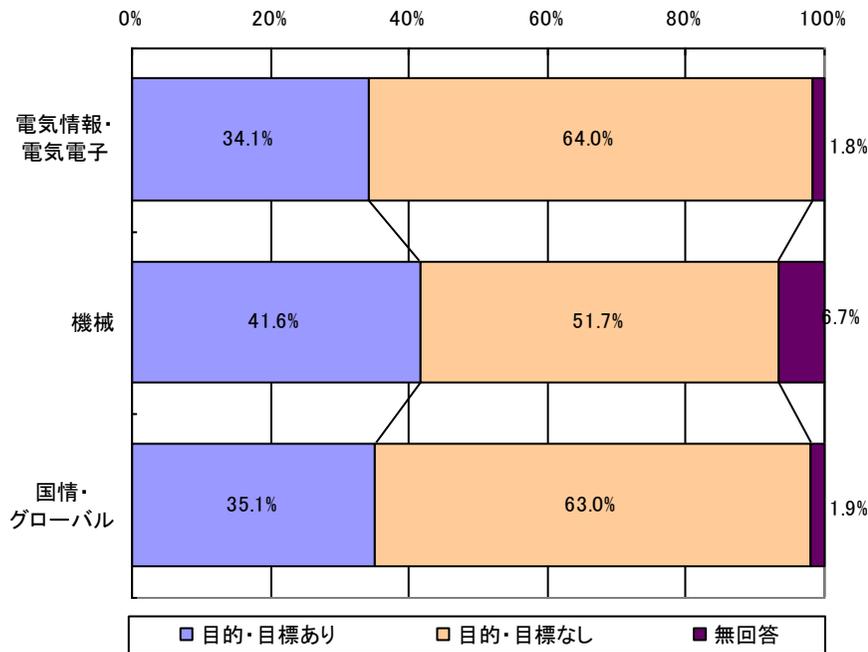
■在学中の「目的・目標」の意識 学年別・年度別比較



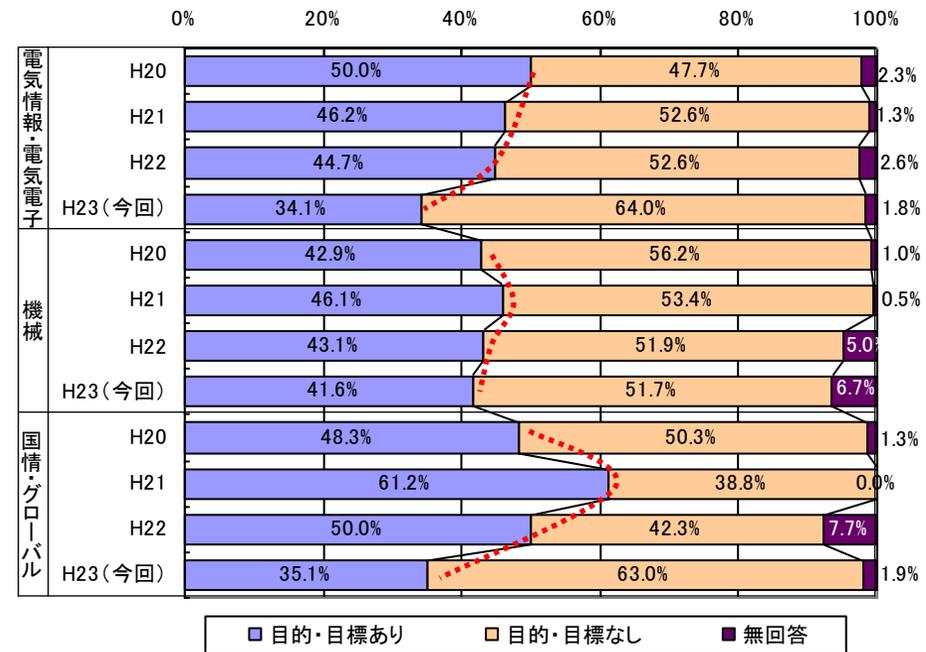
■「目的・目標」の意識の学科別比較

- 「目的・目標」の意識を学科別に比較したところ、「機械」では41.6%が「目的・目標あり」と答えており、3学科の中で最も多かった。次いで、「国情・グローバル」では35.1%、「電気情報・電気電子」では34.1%であり、ここでも「機械」の高さが目立っていた。
- 学科別にH20からの変化を見ると、「電気情報・電気電子」ではH20に「目的・目標あり」が50.0%と最も多かったが、その後は継続的に減少して、今回は34.1%となっており、これまでで最も少なくなっていた。
- 「機械」はH20から大きな変化が見られず、学生群が変わっても「目的・目標」の意識が大きく変わっていないことが確認できた。
- 「国情・グローバル」はH21には「目的・目標あり」が61.2%と非常に多かったが、それ以降は急激に減少を続けており、今回は35.1%と、H21と比べると26.1ポイントと大幅に低下していた。

■在学中の「目的・目標」の意識 学科別比較



■在学中の「目的・目標」の意識 学科別・年度別比較

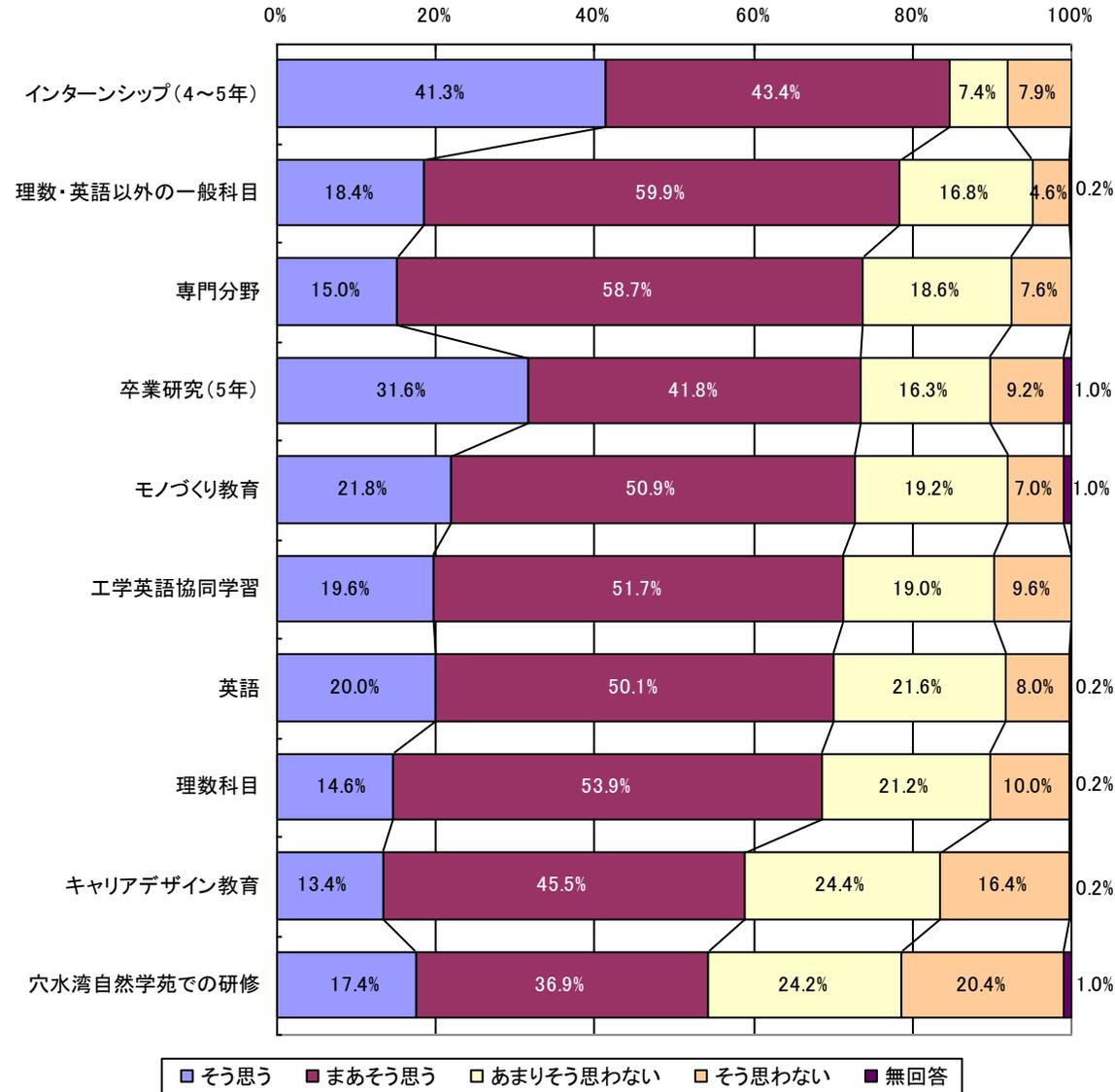


授業に関して

■授業に対する評価

- 授業に対する満足度を「そう思う」と「まあそう思う」の合計で比較したところ、「インターンシップ」の満足度が84.7%で最も高かった。この科目は4年生、5年生のみの科目であるが、9割近くが満足しており、非常に評価が高かった。
- 上記に次いで、「理数・英語以外の一般科目」で78.3%、「専門分野」で73.7%、「卒業研究」で73.4%、「モノづくり教育」で72.7%と続いていた。
- 「そう思う」と「まあそう思う」の合計で見ると上記のような順となっていたが、「そう思う」だけを見ると「インターンシップ」で41.3%、「卒業研究」で31.6%が「そう思う」と答えており、これらの科目では一部の学生が強い満足感を得ているようであった。
- 一方、最も満足度が低かったのは「穴水湾自然学苑での研修」であり、44.6%が不満と答えており、次いで「キャリアデザイン教育」では40.8%が不満という答えであった。

■授業に対する満足度（在学生のみ）

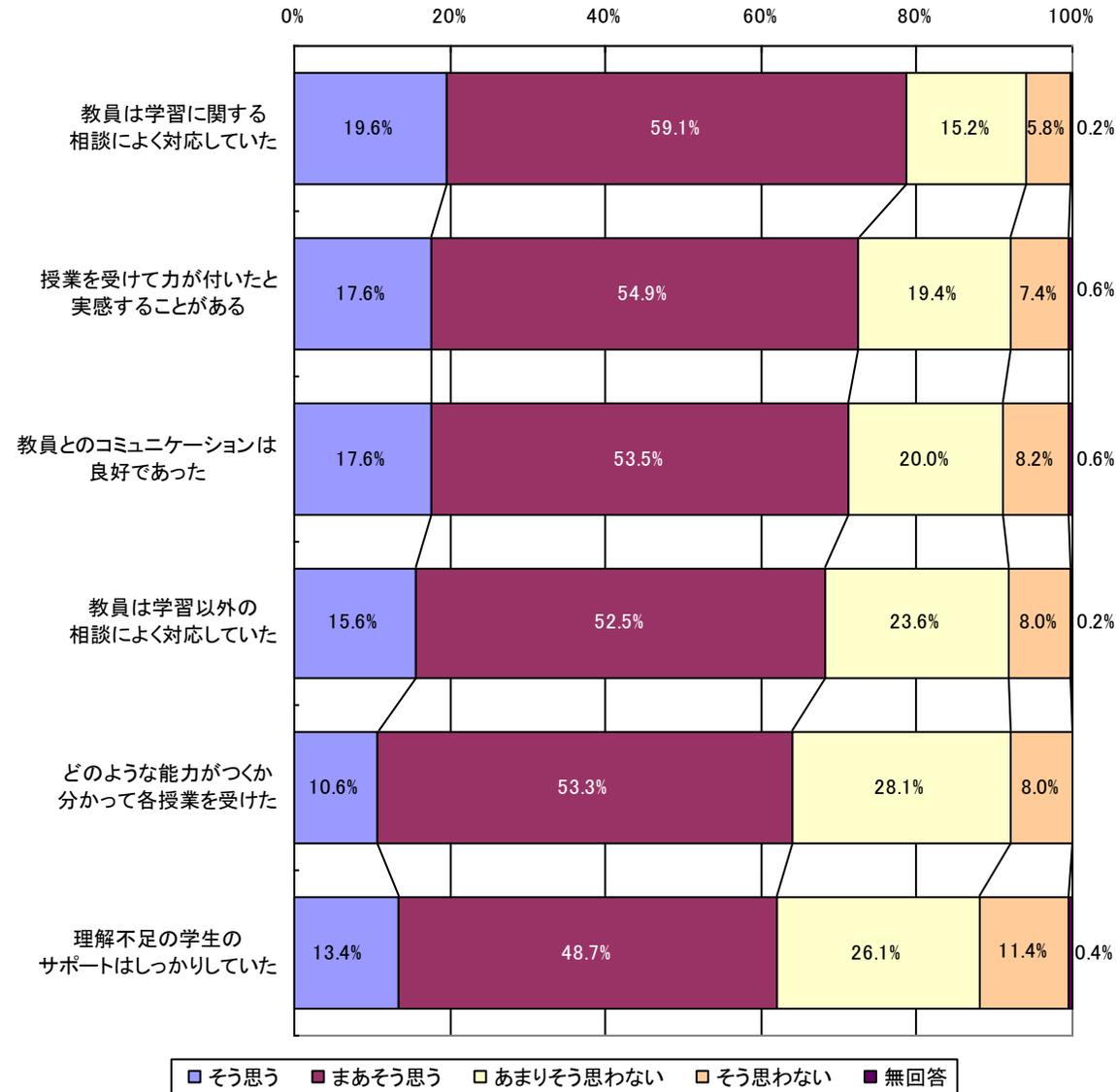


教員および学習支援に関して

■教員および学習支援の満足度

- 教員および学習支援の満足度を「そう思う」と「まあそう思う」の合計で見ると、「教員は学習に関する相談によく対応していた」の満足度が最も高く、78.7%が満足と答えていた。
- 上記に次いで「授業を受けて力が付いたと実感することがある」(72.5%)、「教員とのコミュニケーションは良好であった」(71.1%)と続いており、ここまでの3項目は7割以上が満足という回答であった。
- 一方、最も満足度が低かったのは「理解不足の学生のサポートはしっかりしていた」であり、満足しているという回答は62.1%であり、4割弱が不満を感じていた。
- 「どのような能力がつか分かって各授業を受けた」の満足度も低く、満足という回答は63.9%にとどまった。特に「そう思う」という回答が10.6%しかなく、全体で最も少なかった。

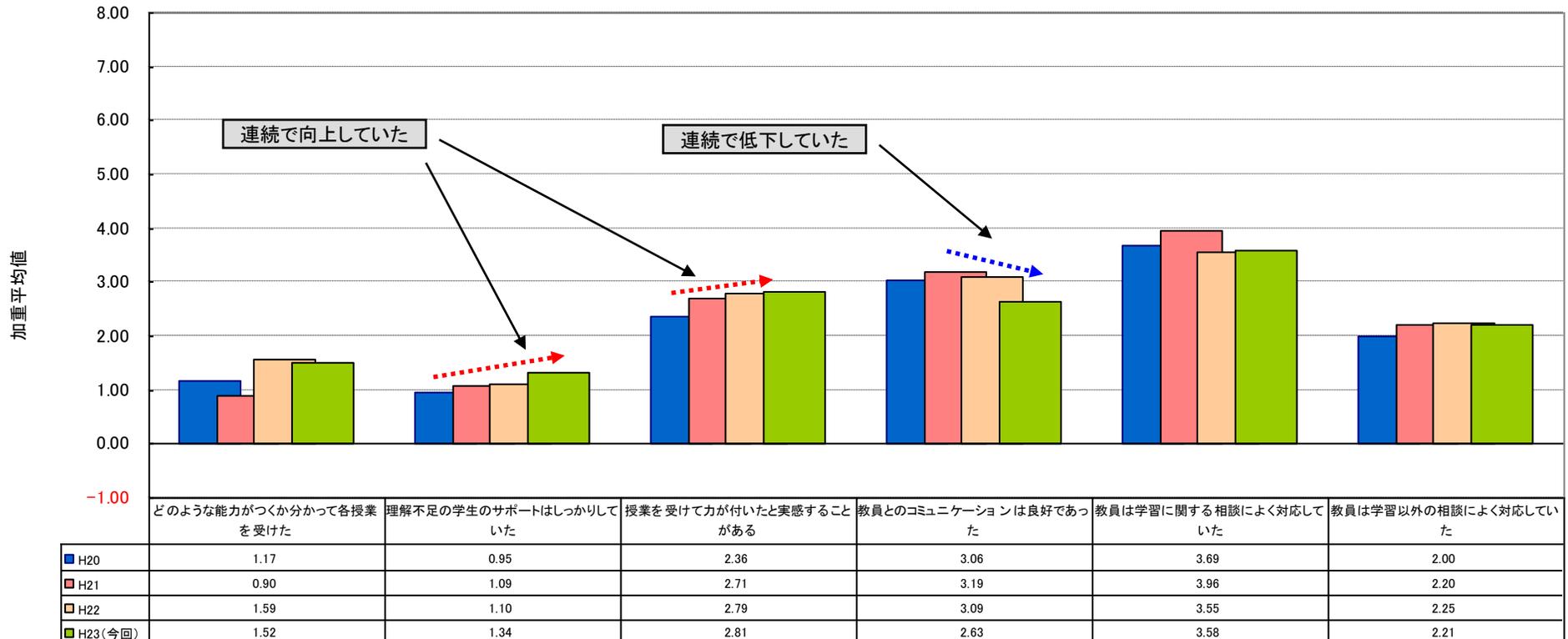
■教員および学習支援の満足度(在学生のみ)



■教員および学習支援の満足度の年度別比較

- 教員および学習支援の満足度の年度別比較を見ると、変化はそれほど大きくなかったが、「理解不足の学生のサポートはしっかりしていた」と「授業を受けて力が付いたと実感することがある」の2項目はH20から継続的に評価が上がっており、改善が進んでいるものと思われた。
- 一方、「教員とのコミュニケーションは良好であった」はH21から継続的に低下しており、特にH22からの低下は大きかった。教員とのコミュニケーションは重要なポイントであると思われ、この低下はしっかりと要因を突き止めておくことが必要と思われる。
- 上記以外の項目は前年と比較してほとんど変化が見られなかった。

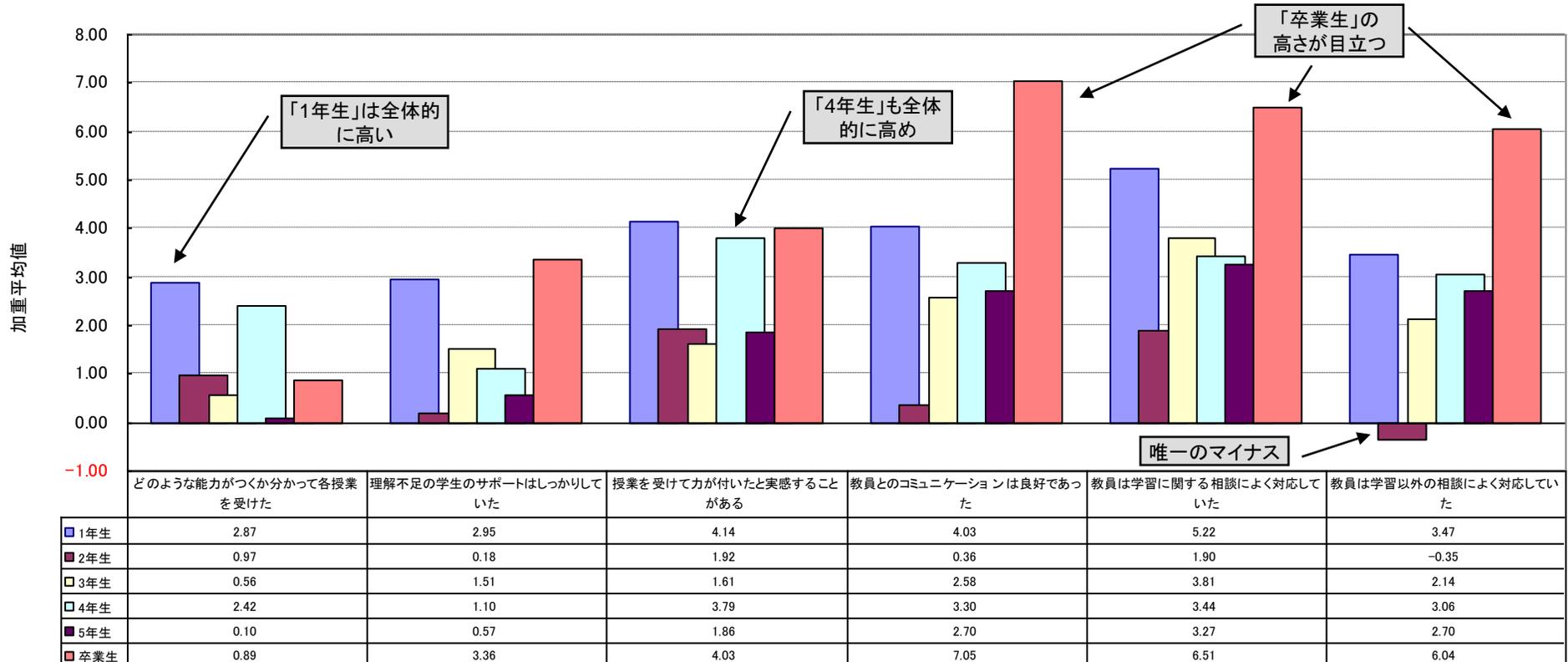
■教員および学習支援評価 年度別比較



■教員および学習支援の満足度の学年別比較

- 教員および学習支援の評価は「卒業生」も含めて分析を行った。
- 在学生だけで比較すると、全ての項目で「1年生」の満足度が最も高かった。特に「理解不足の学生のサポートはしっかりしていた」「教員は学習に関する相談によく対応していた」の高さが目立っており、「1年生」はしっかりサポートされていると感じているようであった。
- 「1年生」に次いで高めであったのは「4年生」であり、「理解不足の学生のサポートはしっかりしていた」と「教員は学習に関する相談によく対応していた」の2項目以外は「1年生」に次ぐ高さであり、教員および学習支援に対して満足している様子がうかがえた。
- 一方、満足度が低めであったのは「2年生」であり、「教員は学習以外の相談によく対応していた」ではマイナススコアであり、「教員とのコミュニケーション」「学習に関する相談」など、教員とのコミュニケーションに不満を持っている様子がうかがえた。
- 「卒業生」は教員とのコミュニケーションの満足度が非常に高い点が特徴的であったが、「どのような能力がつか分かって各授業を受けた」が低かった。この項目は「5年生」も低く、授業の位置づけに関する説明が十分でないと考えているようであった。

■教員および学習支援評価 学年別比較

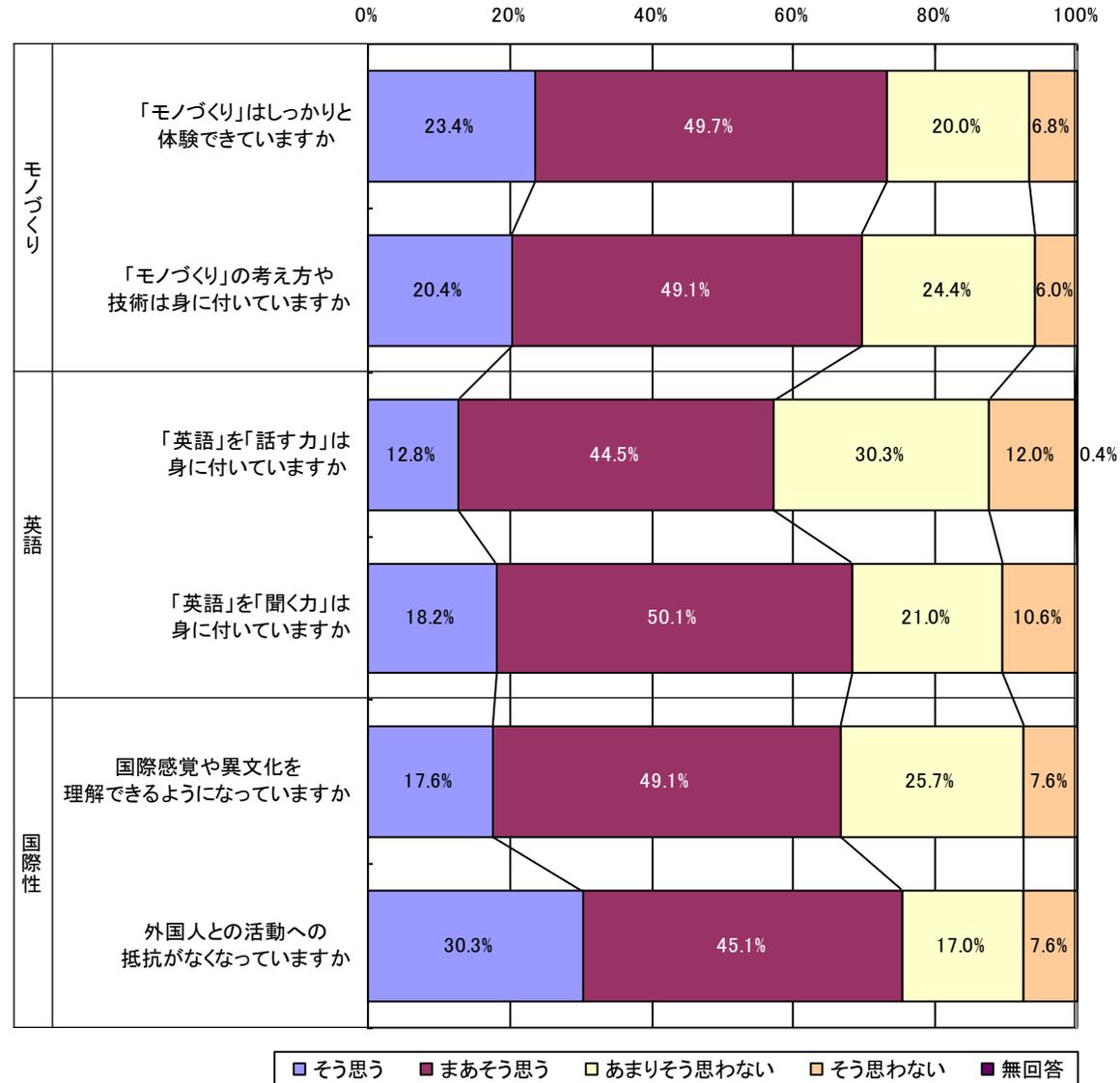


「モノづくり」「英語」「国際性」に関して

■「モノづくり」「英語」「国際性」に対する評価

- 今回より授業中の要素として「モノづくり」「英語」「国際性」を取り上げ、それらの評価を確認した。
- 「モノづくり」に関して、「しっかりと体験できていますか」という問いに対しては、「そう思う」が23.4%、「まあそう思う」が49.7%であり、合わせると73.1%が肯定的な評価であった。そして、「考え方や技術は身に付いていますか」では69.5%が肯定的な意見であった。
- 「英語」に関しては、「聞く力」は68.3%が身に付いていると答えていたが、「話す力」は57.3%であり、両者の差は11.0ポイントであった。
- 「国際性」に関して、「外国人との活動への抵抗がなくなっていますか」という質問に対しては、75.4%が肯定的な意見であり、特に「そう思う」が30.3%と多い点が特徴的であった。そして、「国際感覚や異文化を理解できるようになっていますか」に対しては66.7%が肯定的な意見であった。

■「モノづくり」「英語」「国際性」の評価（在学生のみ）



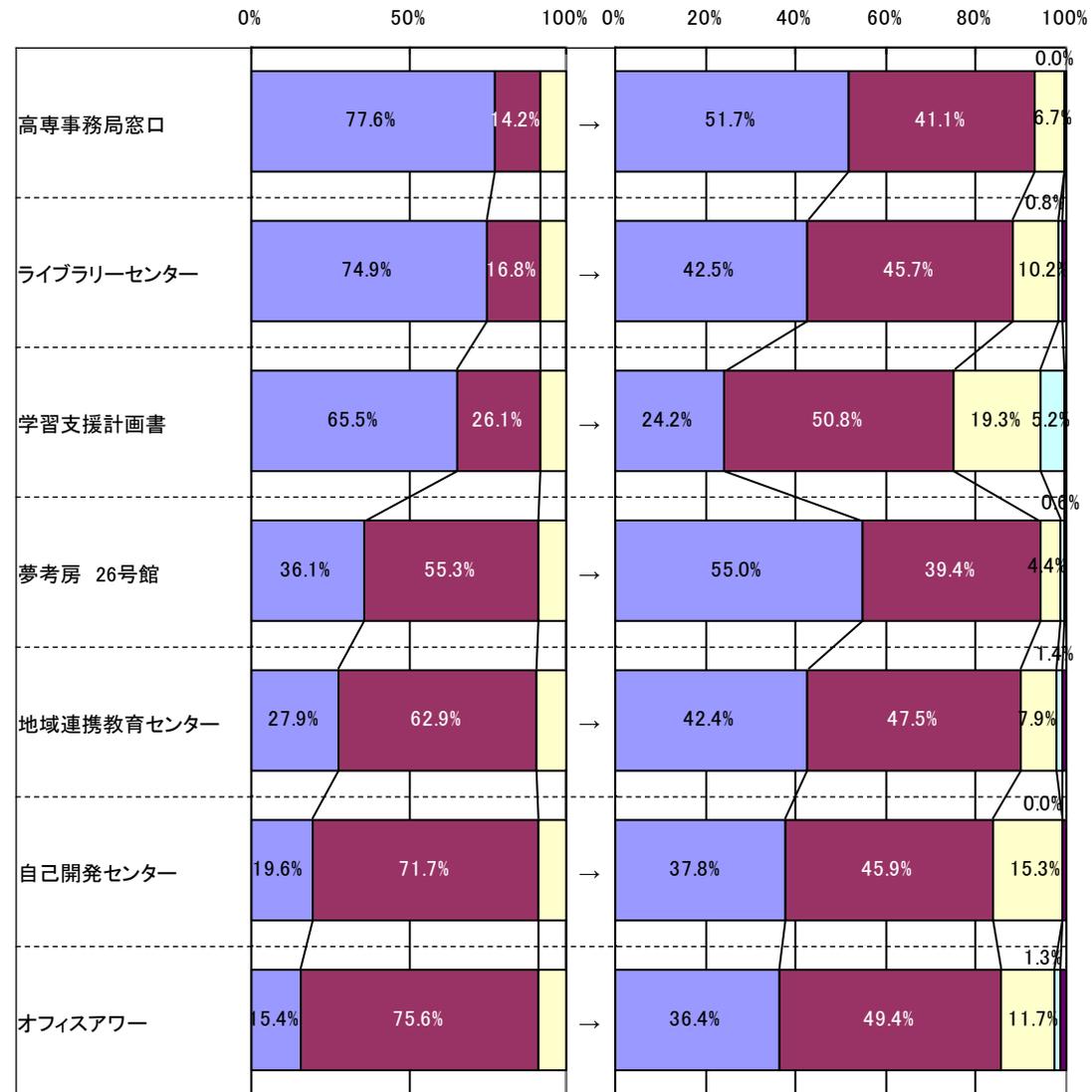
学生サポートに関して

■学生サポートの満足度

- 学生サポートは、まず各サポートの利用の有無を聞き、利用経験が「有り」という回答者にのみ、その満足度を聞いた。グラフは利用者の多いものから順に並べている。
- 利用者の割合が最も多かったのは「高専事務局窓口」であり、77.6%が利用経験ありと答えていた。次いで、「ライブラリーセンター」(74.9%)、「学習支援計画書」(65.5%)と続いていた。
- 一方、利用率が最も少なかったのは「オフィスアワー」の15.4%であり、「自己開発センター」(19.6%)、「地域連携教育センター」(27.9%)と続いていた。
- 満足度は全体的に高く、ほとんどの項目で8割以上が満足と答えていた。特に高かったのは「夢考房26号館」(94.4%)、「高専事務局窓口」(92.8%)、「地域連携教育センター」(89.9%)などであった。
- 「オフィスアワー」「自己開発センター」などは利用率が2割を下回っているにもかかわらず満足度は8割を超えており、機能としては問題はないが、利用促進が足りないものと思われた。
- 満足度が最も低かったのは「学習支援計画書」であり、「役立つ」が24.2%、「まあ役立つ」が50.8%であったが、24.5%は不満を感じており、改善の余地がありそうであった。

■学生サポートの利用の有無(左グラフ)と満足度(右グラフ)

(※満足度は利用者からのみの結果)



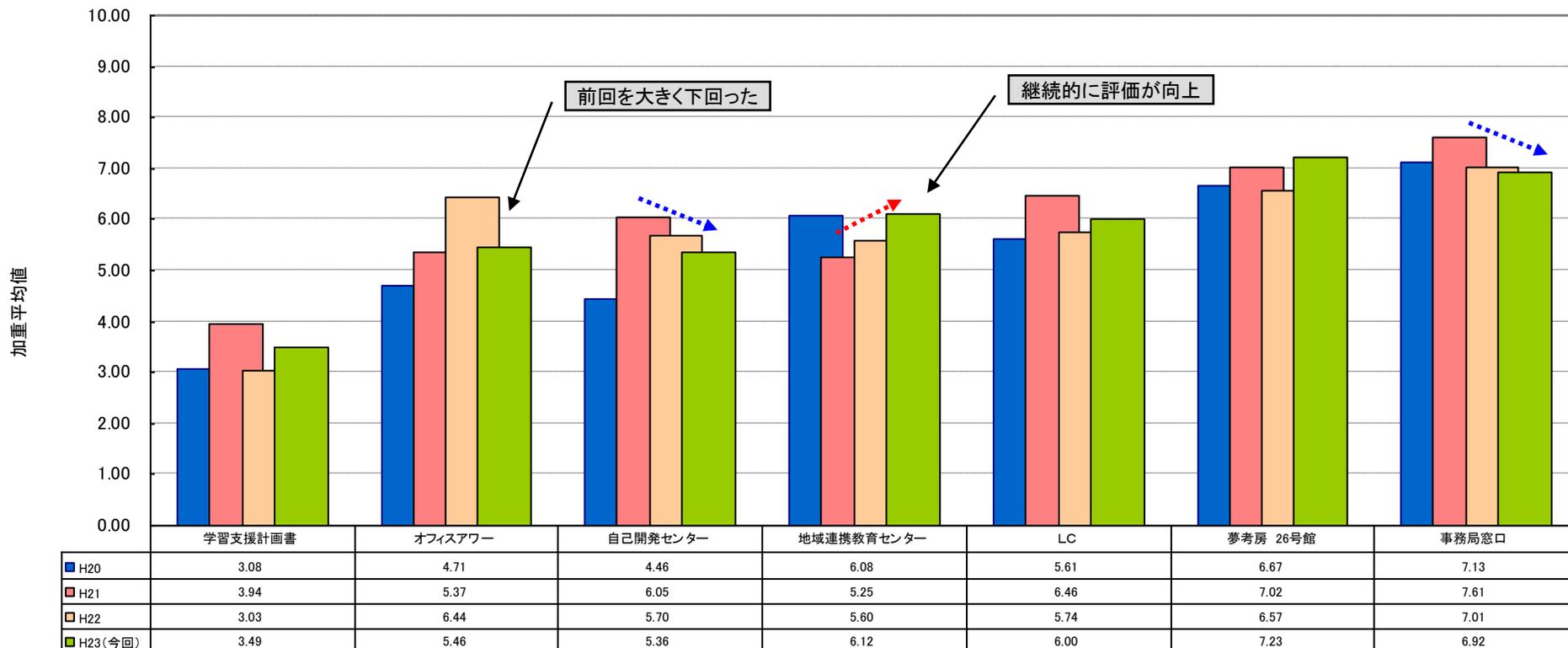
■あり ■なし □無回答

■役立つ ■まあ役立つ □あまり役立たない
□役立たない ■無回答

■学生サポートの満足度(利用者のみ)の年度別比較

- 学生サポートの利用者の評価を年度別に比較したところ、前年を上回ったのは「学習支援計画書」「地域連携教育センター」「ライブラリーセンター」「夢考房26号館」の4項目であった。特に「地域連携教育センター」と「夢考房26号館」はわずかではあるがこれまでで最も高い評価となっていた。また、「地域連携教育センター」はH21より継続的に評価が上がっていた。
- 上記4項目以外は前年を下回っており、中でも「オフィスアワー」は前年を大きく下回っていた。そして、「自己開発センター」と「事務局窓口」は継続的に評価が下がってきており、「事務局窓口」の評価はこれまでで最も低くなっていた。

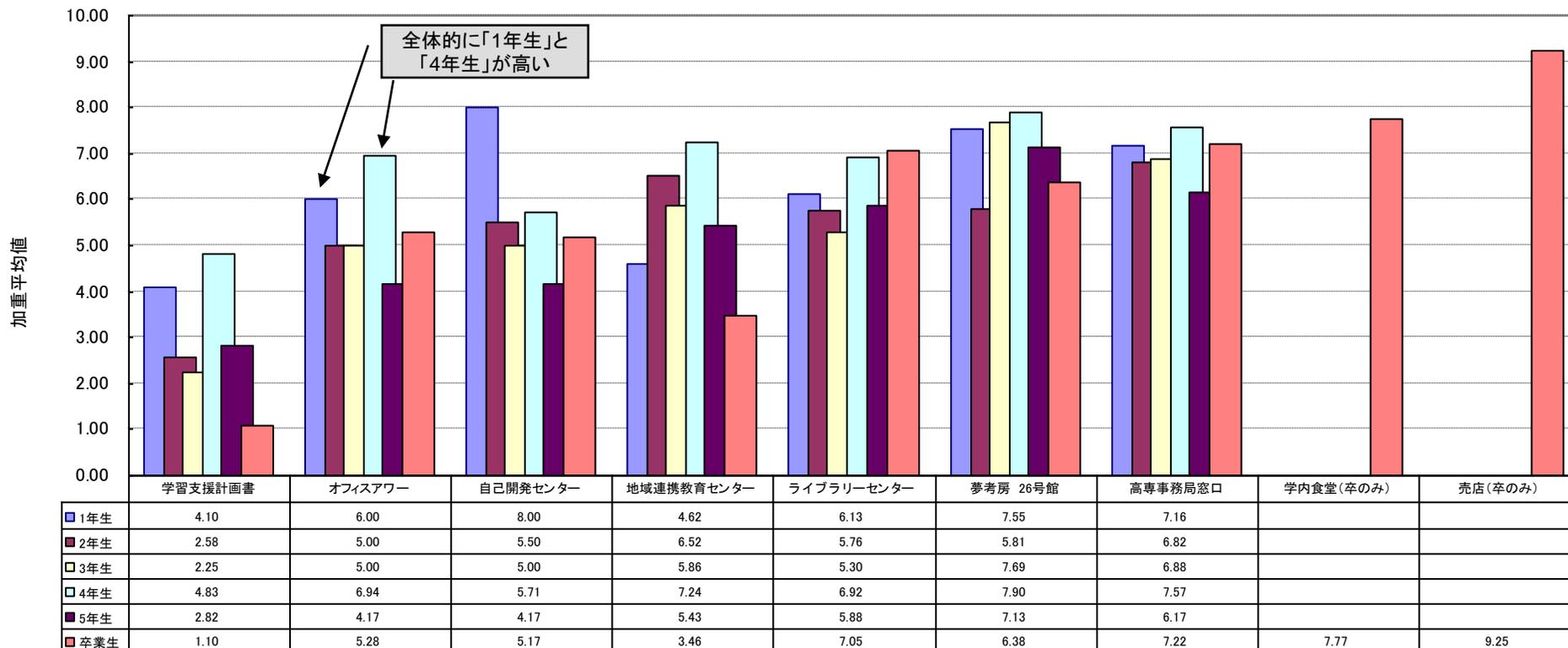
■学生サポート評価 年度別比較



■学生サポートの満足度(利用者のみ)の学年別比較

- 学生サポートの評価については「卒業生」も一緒に比較を行っている。
- 全体の傾向を見ると「1年生」と「4年生」の評価が高く、ほとんどの項目でこの2学年のうちのいずれかが最も高い評価をしていた。「1年生」は「自己開発センター」の評価非常に高く、「学習支援計画書」「オフィスアワー」なども高めであった。そして、「4年生」は「自己開発センター」以外は在在学生の中で最も高い評価をしており、特に「オフィスアワー」「学習支援計画書」の高さが目立っていた。
- 「卒業生」も全体的に高い評価であり、特に「ライブラリーセンター」の評価が高かった。しかし、「学習支援計画書」「地域連携教育センター」の評価は全ての在在学生を下回って厳しい評価をしており、何らかの課題を感じているようであった。
- 上記以外の学年に関しては大きな特徴は見られなかったが、全体的に「5年生」の評価がやや低めであった。

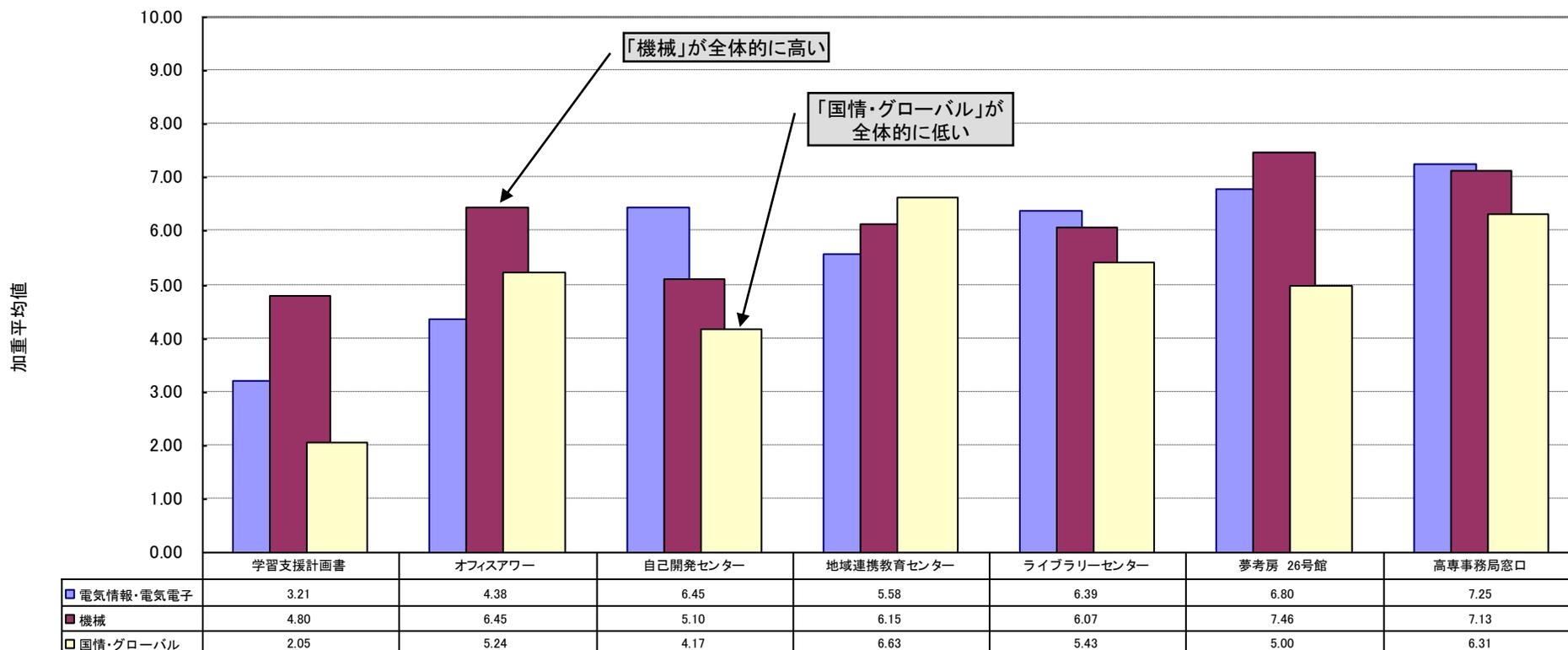
■学生サポート評価 学年別比較



■ 学生サポートの満足度(利用者のみ)の学科別比較

- 学生サポートの満足度を学科別に比較したところ、「機械」の評価が全体的に高く、特に「学習支援計画書」「オフィスアワー」の評価の高さが目立っていた。
- 「電気情報・電気電子」も3つの項目で最も高い評価となっており、特に「自己開発センター」の評価の高さが目立っていた。しかし、「オフィスアワー」「地域連携教育センター」の評価は3学科の中で最も厳しいものであった。
- 「国情・グローバル」は「地域連携教育センター」の評価が最も高かったものの、他の項目は全体的に低く、特に「学習支援計画書」「夢考房26号館」の低さが目立っていた。
- 「夢考房26号館」に対する「機械」の評価が高いという点には学科の特徴がうかがえたが、その他に関しては学科の特徴のようなものは見られなかった。

■ 学生サポート評価 学科別比較

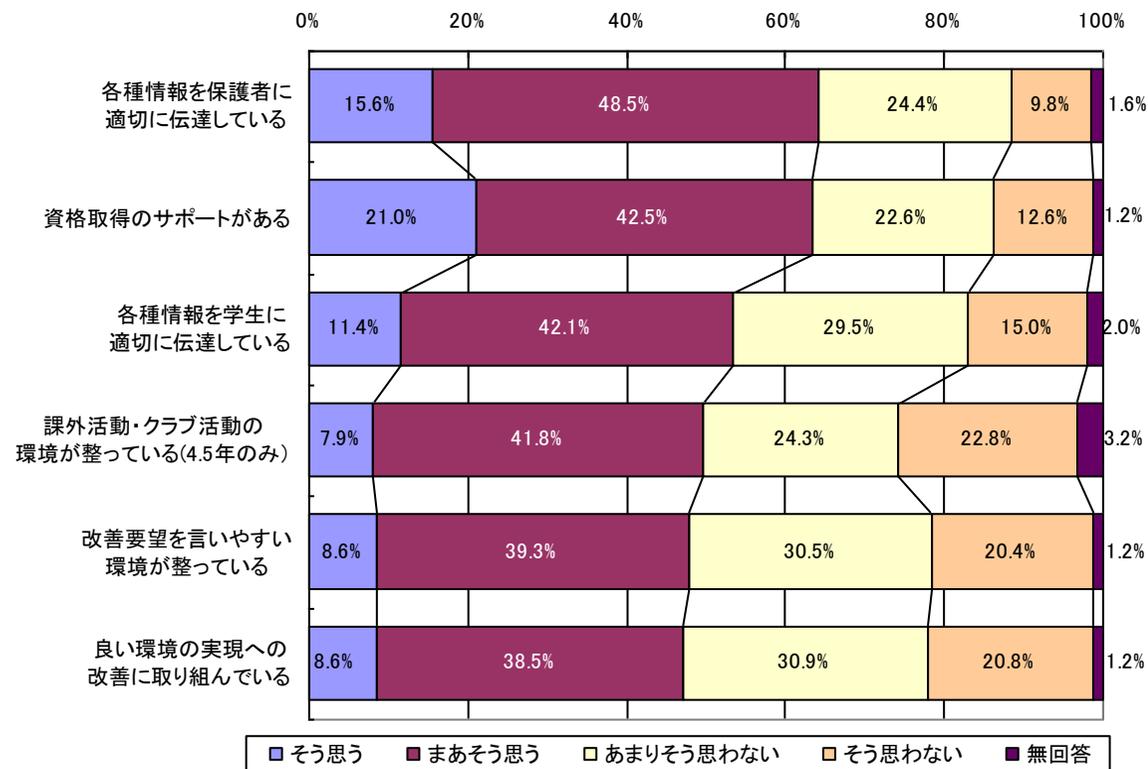


学校の取り組み姿勢に関して

■学校の取り組み姿勢の評価

- 情報伝達や改善への取り組みなど、学校の取り組み姿勢に関する6つの項目について聞いた。
- 「そう思う」と「まあそう思う」の合計で見ると、「各種情報を保護者に適切に伝達している」の評価が最も高く、64.1%が肯定的な意見であった。次いで、「資格取得のサポートがある」では63.5%が肯定的な評価をしていた。資格取得に関しては「そう思う」という回答が21.0%であり、一部の学生から高い評価を受けているようであった。
- 最も厳しい評価となっていたのは「良い環境の実現への改善に取り組んでいる」であり、肯定的な意見は47.1%であった。次いで、「改善要望を言いやすい環境が整っている」では肯定的な意見が47.9%、「課外活動・クラブ活動の環境が整っている」では49.7%であり、これらの項目では約半数が不満を持っているようであった。
- 「課外活動・クラブ活動の環境が整っている」は「4年生」と「5年生」だけに聞いた質問であるが、「そう思わない」という回答が22.8%と最も多く、一部の学生は強い不満を持っていると言える。
- 「1年生」～「3年生」のクラブ活動に関する意識は別の質問で聞いているが、「クラブで活動しやすい環境がありますか」という問いに対しては41.6%が「はい」と答えており、54.5%は環境に満足していないようであり、やはり半数程度は不満を感じていた。(参照:57ページ)

■学校の取り組み姿勢の評価(在学生のみ)

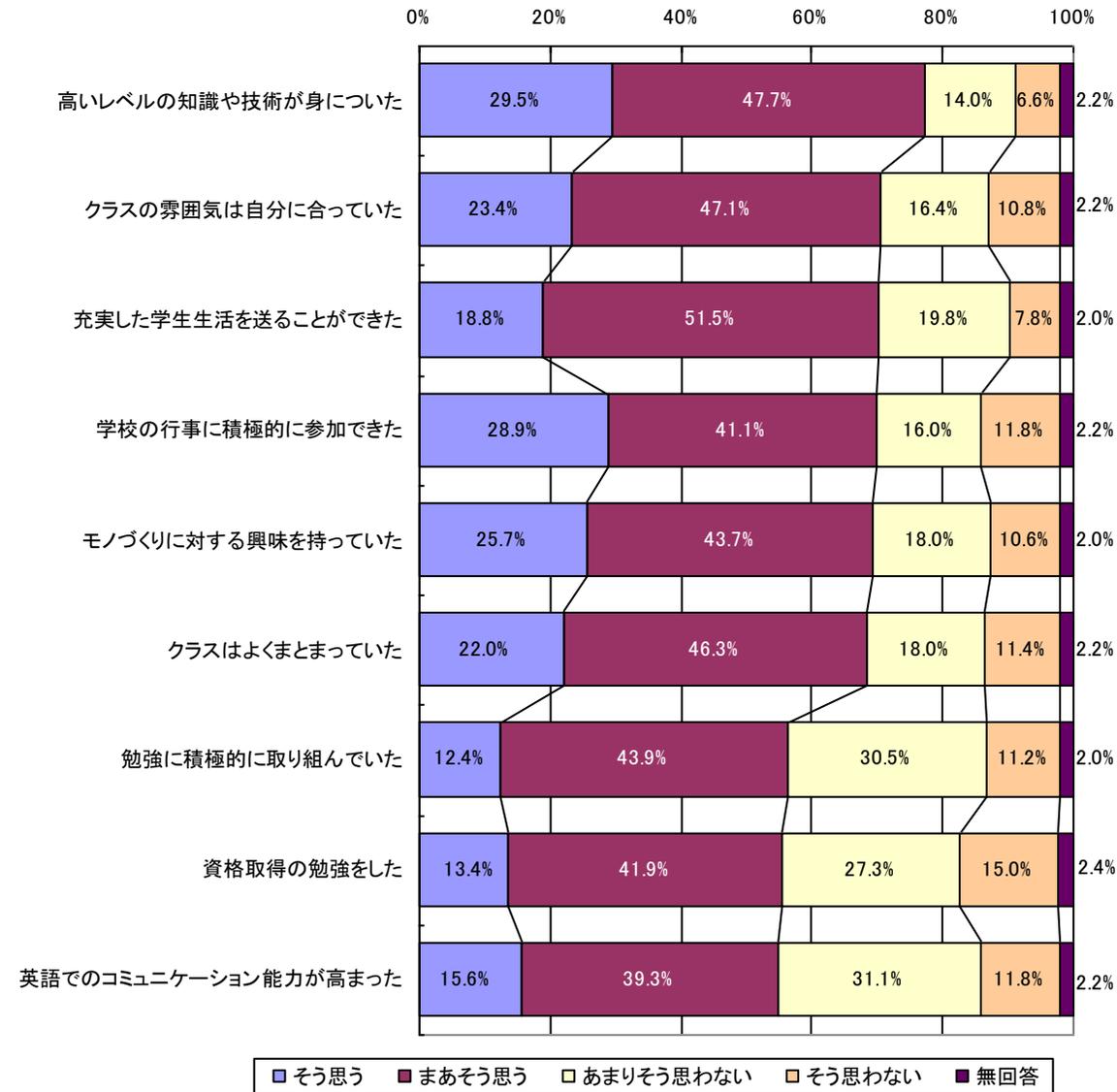


学校での過ごし方に関して

■学校での過ごし方

- 学校での過ごし方に関しては「高いレベルの知識や技術が身についた」で「そう思う」が29.5%、「まあそう思う」が47.7%であり、合わせると77.2%が肯定的な意見であった。
- 上記に次いで「クラスの雰囲気は自分に合っていた」(70.5%)、「充実した学生生活を送ることができた」(70.3%)、「学校の行事に積極的に参加できた」(70.0%)、「モノづくりに対する興味を持っていた」(69.4%)、「クラスはよくまとまっていた」(68.3%)と続いており、ここまでの6項目は肯定的な意見が約7割であった。
- 全体的に評価は高かったが、「そう思う」だけを見ると「高いレベルの知識や技術が身についた」「学校の行事に積極的に参加できた」の2項目の高さが目立っていた。
- 一方、肯定的な意見が最も少なかったのは「英語でのコミュニケーション能力が高まった」であり、肯定的な意見は54.9%であった。次いで「資格取得の勉強をした」が55.3%、「勉強に積極的に取り組んでいた」が56.3%であり、資格取得や勉強に積極的に取り組んでいた学生は約半数という状況であった。

■学校での過ごし方(在学生のみ)

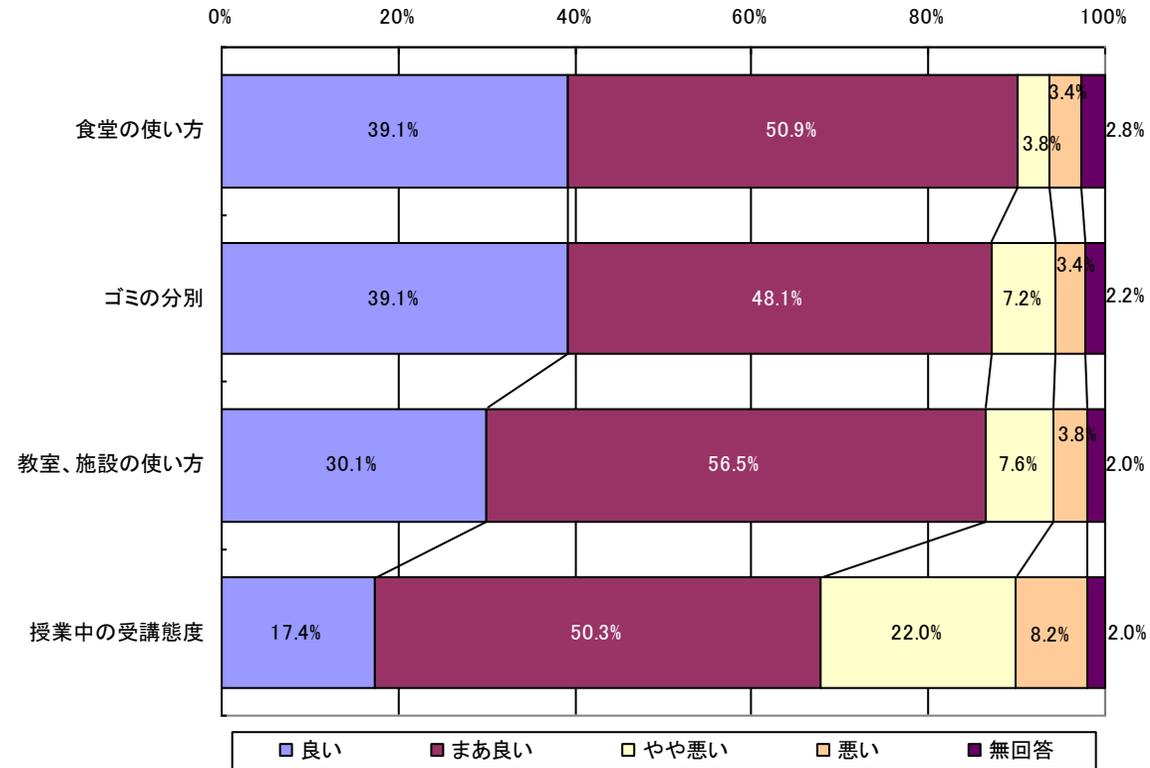


学内での自分自身のマナーに関して

■学内での自分自身のマナー

- 学内でのマナーに関しては、「自分自身のマナーをどう思うか？」と自己評価を聞いている。
- 「良い」と「まあ良い」の合計で比較すると、「食堂の使い方」は90.0%が良いと評価しており、「ゴミの分別」は87.2%、「教室、施設の使い方」は86.6%とほぼ9割であり、これを見る限り大きな問題は見られなかった。
- 最も自己評価が低かったのは「授業中の受講態度」であり、67.7%は良いという評価であったが、30.2%は悪いと感じていた。

■学内での自分自身のマナー（在学生のみ）

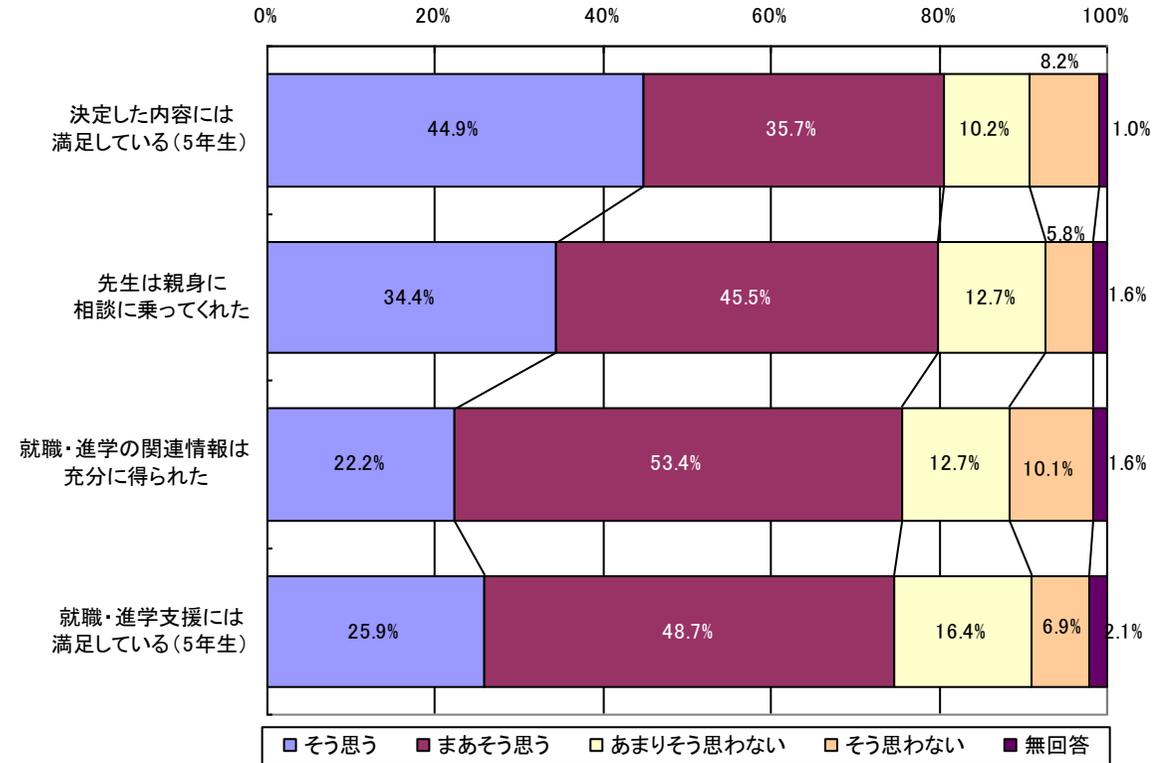


就職・進学支援に関して

■就職・進学支援に関して

- 就職・進学支援に関しては4年生と5年生だけに聞いている。
- 4つの項目すべてで7割以上が肯定的な意見であり、満足度の高さがうかがえたが、最も高かったのは「決定した内容には満足している」であり、80.6%が満足という意見であった。
- 上記に次いで「先生は親身に相談に乗ってくれた」が79.9%、「就職・進学の関連情報は十分に得られた」が75.6%、「就職・進学支援には満足している」は74.6%が満足という意見であった。
- 全体的に満足度は高かったが、「そう思う」という回答だけを見ると、「就職・進学の関連情報は十分に得られた」が22.2%とやや低く、強いて言えばこの辺りに課題があるものと思われる。

■就職・進学支援の評価(4年生、5年生のみ)

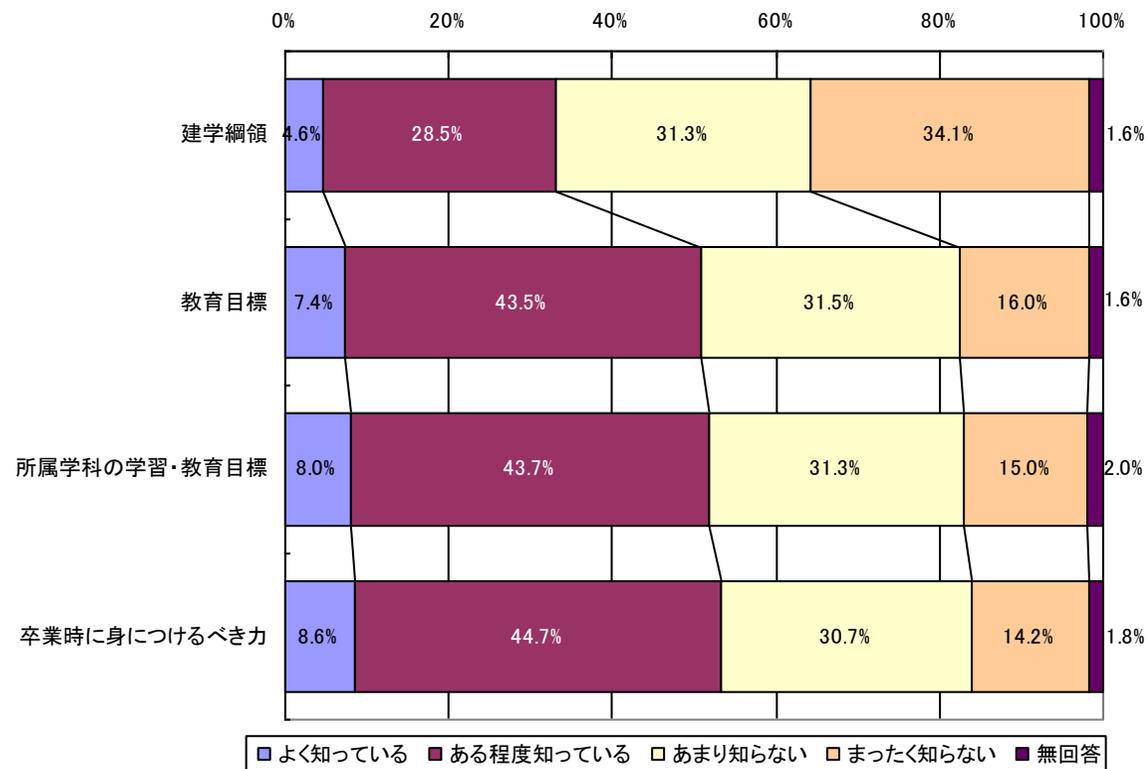


KTCの目的・目標に関して

■KTCの目的・目標に対する意識

- 「KTCの目的・目標」に関する質問は今回から加えた質問であるが、「建学綱領」「教育目標」などの内容を知っているかどうかを聞いている。
- 「よく知っている」と「ある程度知っている」の合計で見ると、「建学綱領」を知っているという回答は33.1%であり、学生の1/3程度であった。
- あとの3項目はほぼ同じであったが、「教育目標」は50.9%、「所属学科の学習・教育目標」は51.7%、「卒業時に身につけるべき力」は53.3%であり、ほぼ半数が知っていると答えていた。

■KTCの目的・目標に対する意識(在学生のみ)

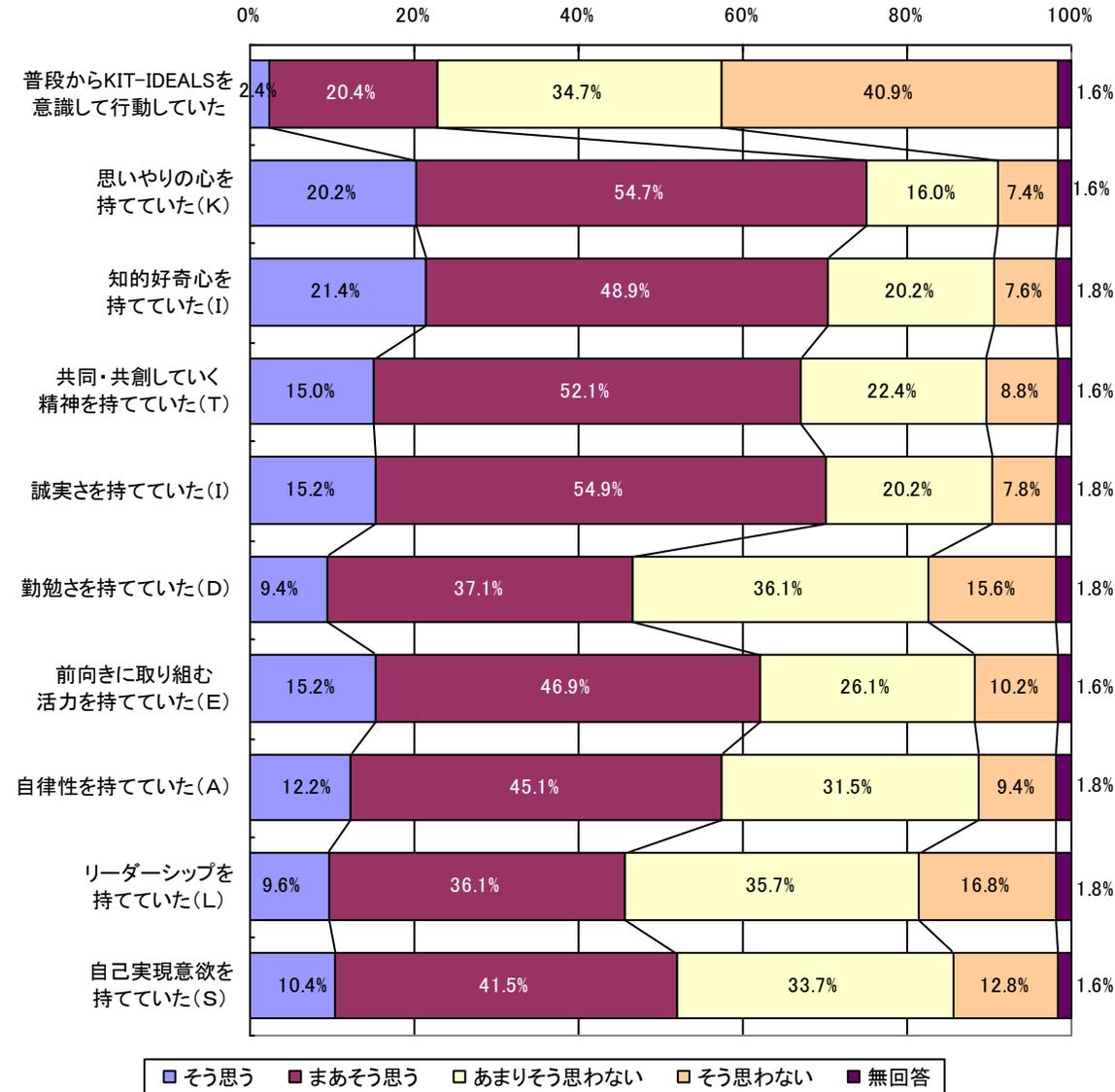


KIT-IDEALSに関して

■KIT-IDEALSに関して

- 学生のKIT-IDEALSに対する意識に関して、「普段からKIT-IDEALSを意識して行動していた」では「そう思う」が2.4%、「まあそう思う」が20.4%であり、合わせて22.8%が肯定的な意見であった。「そう思わない」と「あまりそう思わない」を合わせた75.6%は、それほど意識していないという結果であった。
- KIT-IDEALSの各項目に関して、最も肯定的な意見が多かったのは「思いやりの心を持っていた(K)」であり、74.9%が肯定的な意見であった。
- 上記に次いで「知的な好奇心を持っていた(I)」「誠実さを持っていた(I)」「共同・共創していく精神を持っていた(T)」が続いていた。
- 一方、肯定的な意見が少なかったのは「リーダーシップを持っていた(L)」「勤勉さを持っていた(D)」「自己実現意欲を持っていた(S)」の3項目で、これらは肯定的な意見が約半数であった。

■KIT-IDEALSに関して(在学生のみ)

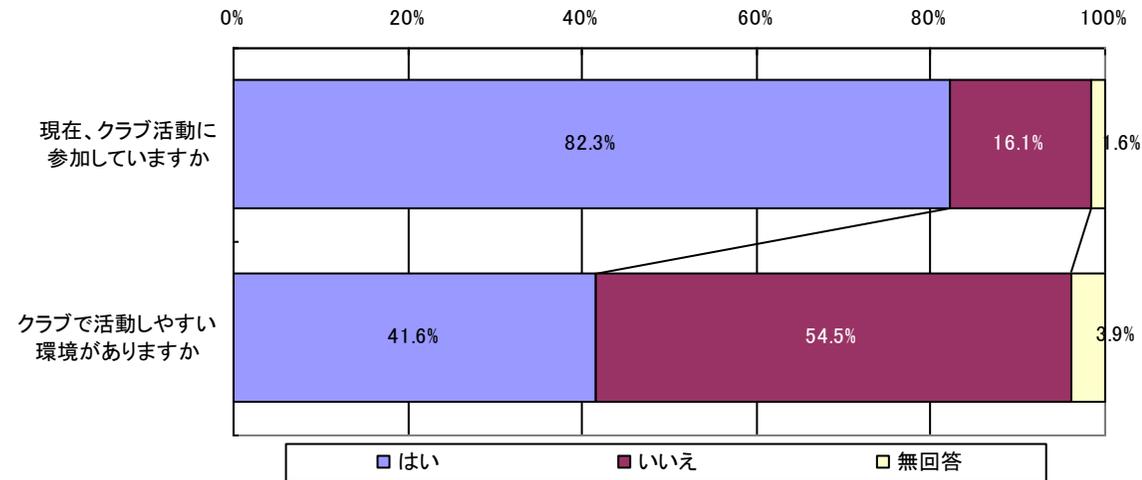


クラブ活動に関して

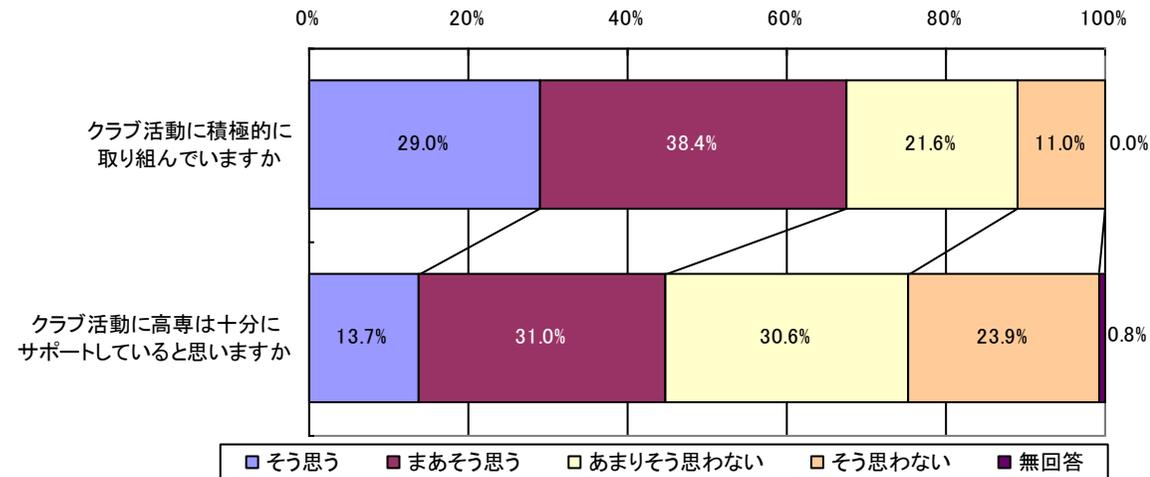
■クラブ活動の現状に関して

- クラブ活動に関する質問は「1年生」から「3年生」だけに聞いており、「現状評価」はクラブ活動参加者だけを集計の対象としている。
- 「現在、クラブ活動に参加していますか」という問いに対しては、82.3%が「はい」と答えていた。
- 「クラブで活動しやすい環境がありますか」という問いに対しては41.6%が「はい」と答えており、54.5%は環境に満足していないようであった。
- クラブ参加者に対して「クラブ活動に積極的に取り組んでいますか」と聞いたところ、「そう思う」が29.0%、「まあそう思う」が38.4%であり、合わせると67.4%が積極的であると答えていた。
- 「クラブ活動に対して高専は十分にサポートしていると思いますか」という質問に対しては、「そう思う」が13.7%、「まあそう思う」が31.0%で、合わせると44.7%であり、約半数はサポートが不十分だと感じていた。
- 「4年生」と「5年生」に関しては別の質問で「課外活動・クラブ活動の環境が整っていると思いますか？」と聞いているが、そこでは肯定的な意見は49.7%であり、やはり半数は不満を感じているようであった。(参照:32ページ)

■クラブ活動の現状に関して(1~3年生のみ)



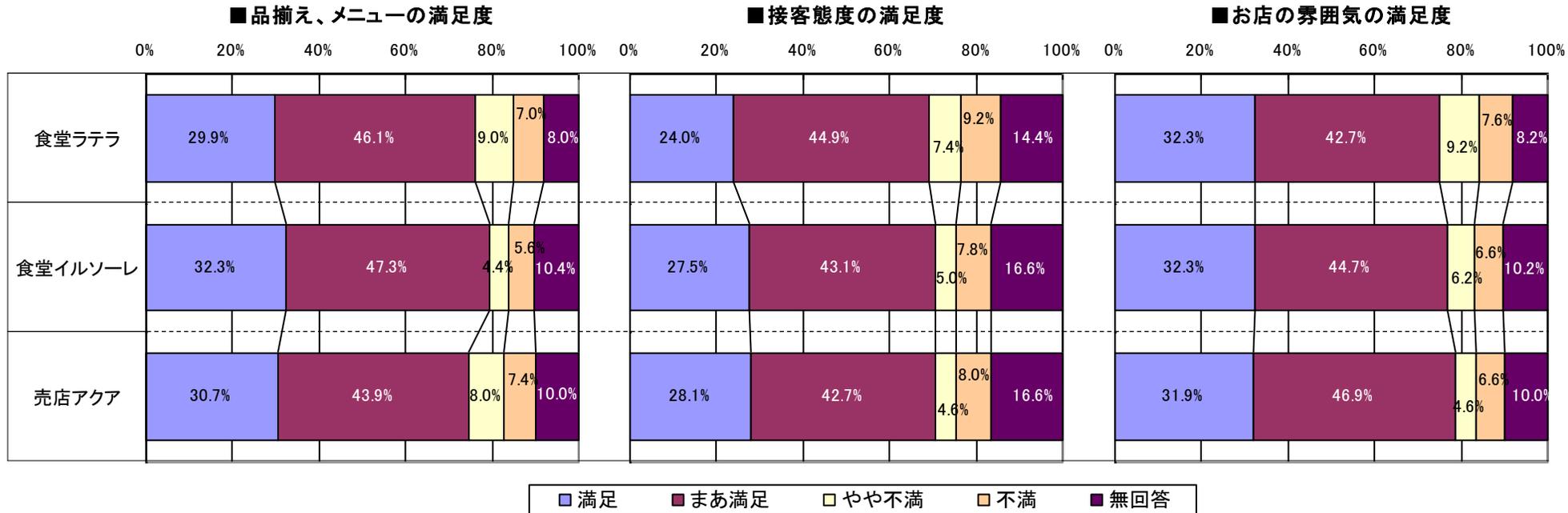
■クラブ活動参加者の現状評価(1~3年生、クラブ活動参加者のみ)



KIT Eagle's FUNに関して

■食堂、売店の評価

- 学内の食堂である「ラテラ」「イルソーレ」と売店「アクア」の3つに対して、「品揃え、メニュー」「接客態度」「雰囲気」の3点の評価を聞いた。
- 「品揃え、メニュー」に関して「満足」と「まあ満足」の合計で比較すると、3施設であまり差は見られなかったが、「イルソーレ」では79.6%が満足という回答であり、「ラテラ」が76.0%、「アクア」が74.6%で、「ラテラ」と「アクア」ではほとんど差が見られなかった。
- 「接客態度」も3施設であまり差はなく、「アクア」で70.8%、「イルソーレ」で70.6%とほぼ同じで、「ラテラ」は68.9%とやや低めであった。
- 「お店の雰囲気」で最も満足度が高かったのは「アクア」であり、78.8%が満足と答えていた。次いで、「イルソーレ」が77.0%、「ラテラ」が75.0%であり、ここでも3施設の差はほとんど見られなかった。

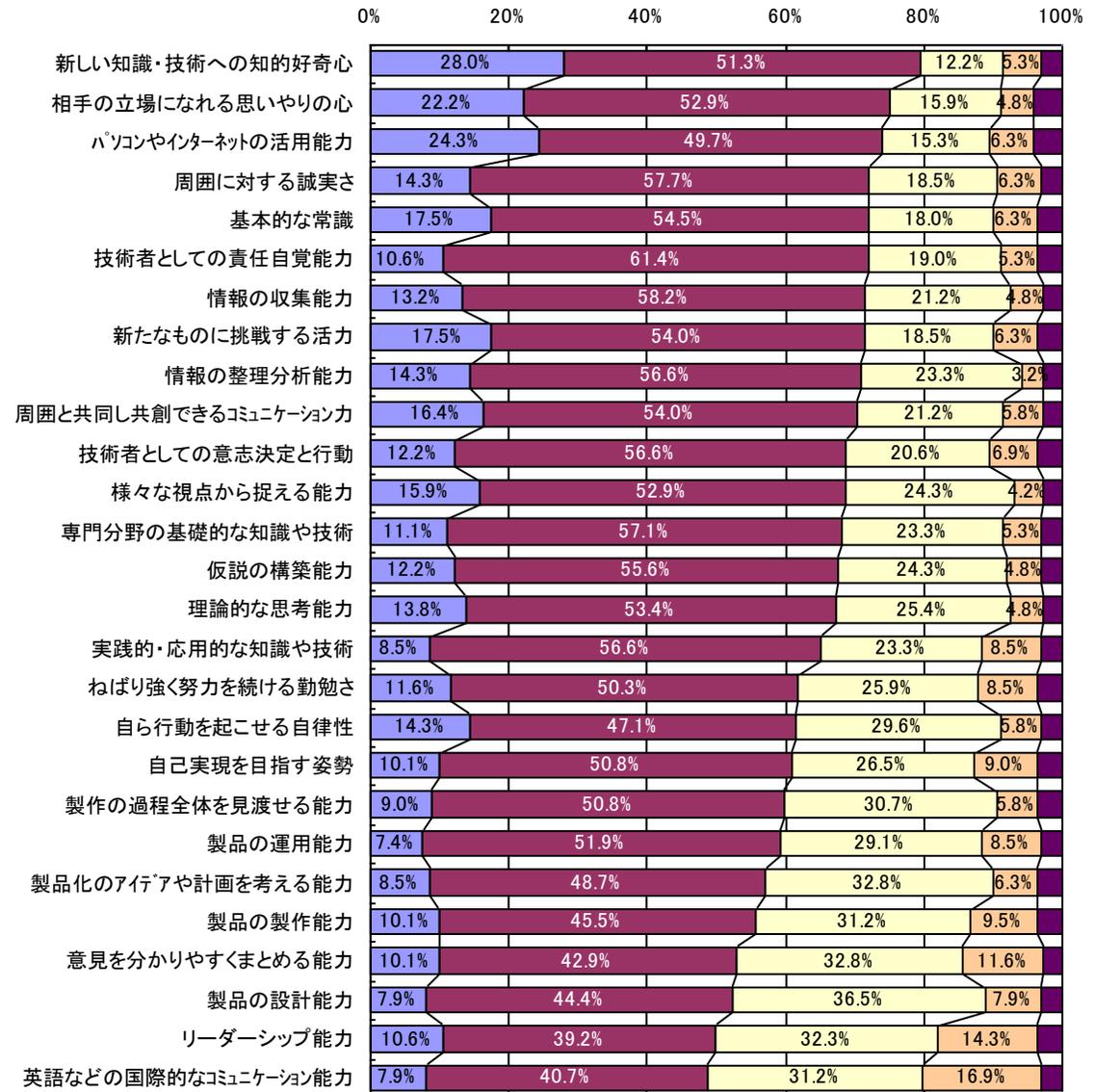


学生の能力に関して

■自分自身の能力の評価

- 「学生自身の現段階の自分自身の能力」に関しては、4年生、5年生の2学年だけに聞いている。
- 「満たしている」と「少し満たしている」を合わせた割合で比較すると、「新しい知識・技術への知的好奇心」で79.3%が満たしていると答えており、学生が最も強みと感じている点と言える。
- 上記に次いで「相手の立場になれる思いやりの心」(75.1%)、「パソコンやインターネットの活用能力」(74.0%)、「周囲に対する誠実さ」「基本的な常識」「技術者としての責任自覚能力」「技術者としての責任自覚能力」(72.0%)と続いており、これらも強みと感じているようであった。
- 一方、最も自信を持てていなかったのは「英語などの国際的なコミュニケーション能力」であり、満たしているという回答は48.6%であった。そして、「リーダーシップ能力」(49.8%)、「製品の設計能力」(52.3%)、「意見を分かりやすくまとめる能力」(53.0%)と続いていた。

■学生が考える現段階の自分自身の能力

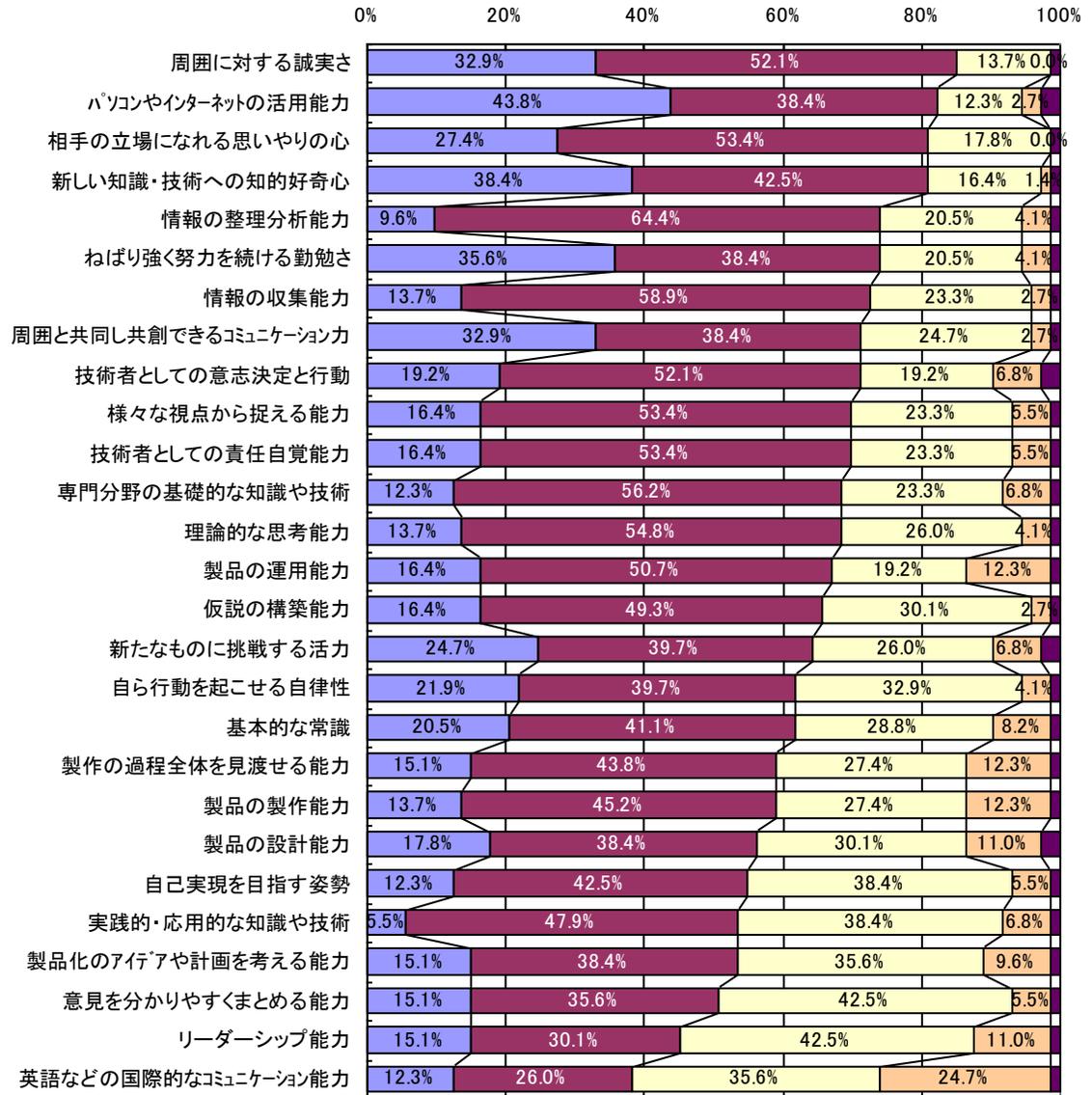


■ 満たしている ■ 少し満たしている □ あまり満たしていない □ 満たしていない ■ 無回答

■卒業生による自分自身の能力の評価

- 今回は卒業生に卒業時の自分自身の能力の評価を聞いた。「満たしている」と「少し満たしている」を合わせた割合で比較すると、最も評価が高かった項目は「周囲に対する誠実さ」であり、85.0%が満たしていると評価していた。
- 上記に次いで高かったのは「パソコンやインターネットの活用能力」で、82.2%が肯定的な意見であったが、この項目では「満たしている」という回答が43.8%と多く、この点を強く特徴だと感じているようであった。
- 上記に「相手の立場になれる思いやりの心」「新しい知識・技術への知的好奇心」を加えた4項目は肯定的な意見が80%を超えており、これらが卒業生が感じる金沢高専卒業生の強みといえることができる。
- 一方、自己評価が最も低かったのは「英語などの国際的なコミュニケーション能力」であり、満たしているという回答は38.3%にとどまった。他に「リーダーシップ能力」「意見を分かりやすくまとめる能力」「製品化のアイデアや計画を考える能力」なども低かった。

■卒業生が考える卒業時点の自分自身の能力

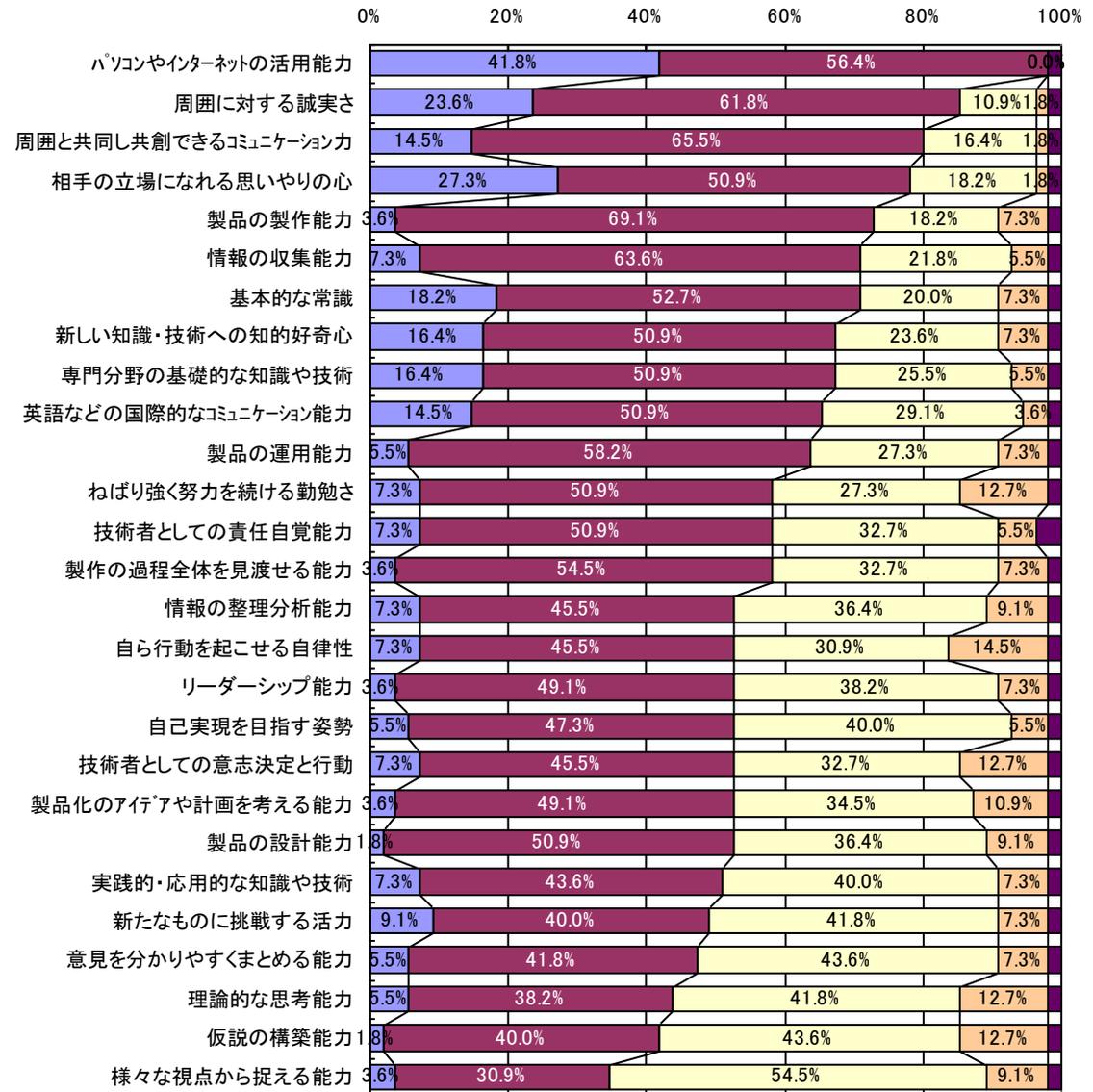


■ 満たしている ■ 少し満たしている □ あまり満たしていない □ 満たしていない ■ 無回答

■教職員による卒業生の能力の評価

- 教職員には卒業生の卒業時の能力の評価を聞いていますが、最も評価が高かったのは「パソコンやインターネットの活用能力」であり、98.2%が肯定的な意見であり、他の項目と比べて突出していた。
- 上記に次いで「周囲に対する誠実さ」では肯定的な意見が85.4%、「周囲と共同し共創できるコミュニケーション力」が80.0%、「相手の立場になれる思いやりの心」が78.2%と続いていた。
- 上位のものを見ると、「誠実さ」「コミュニケーション力」「思いやりの心」など、周囲との関係づくりの評価が高いように思われた。
- 一方、最も肯定的な意見が少なかったのは「様々な視点から捉える能力」であり、肯定的な意見は34.5%であった。
- 他に低かった項目は「仮説の構築能力」で肯定的な意見が41.8%、「理論的な思考能力」で43.7%、「意見を分かりやすくまとめる能力」が47.3%であった。
- 評価の低いものを見ると、「様々な視点」「仮説構築」「理論的な思考」「意見を分かりやすくまとめる」などが弱いという評価であった。

■教職員による金沢高専卒業生の能力評価

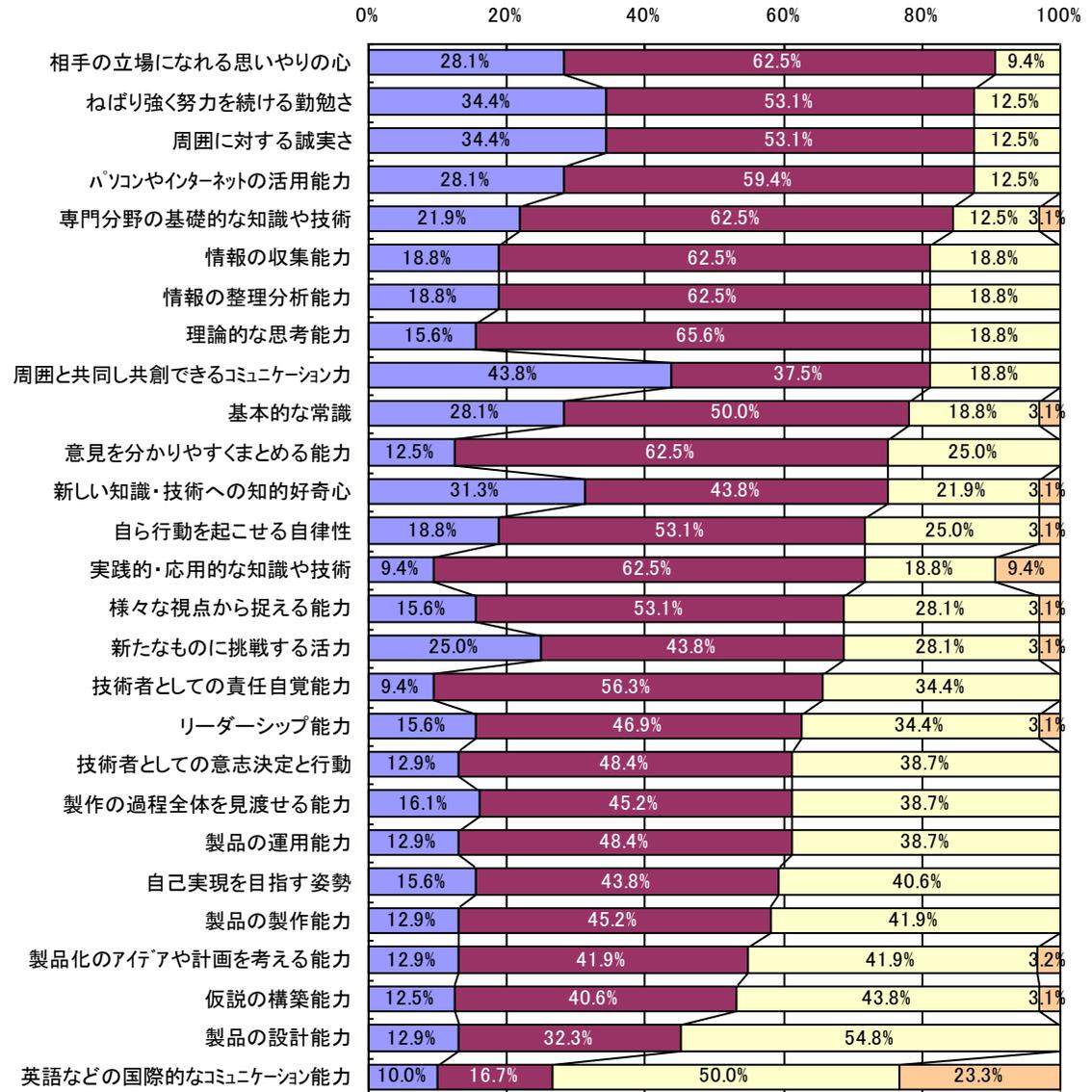


■ 満足している ■ 少し満足している □ あまり満足していない □ 満足していない ■ 無回答

■企業による卒業生の能力評価

- 今回は企業の担当者に金沢高専の卒業生の評価を聞いた。この質問では該当者のことが分からないなど、無回答が多かったため、無回答を除いて集計を行っている。
- 最も評価が高かったのは「相手の立場になれる思いやりの心」であり、肯定的な意見は90.6%であった。
- 上記に次いで「ねばり強く努力を続ける勤勉さ」(87.5%)、「周囲に対する誠実さ」(87.5%)、「パソコンやインターネットの活用能力」(87.5%)、「専門分野の基礎的な知識や技術」(84.4%)と続いており、上位のものを見ると「思いやり」「勤勉さ」「誠実さ」といったキーワードが見られ、人間性が高く評価されている様子がうかがえた。
- 一方、最も評価が低かったのは「英語などの国際的なコミュニケーション能力」であり、肯定的な意見は26.7%で、他と比べてもかなり低い評価となっていた。
- 「製品の設計能力」(45.2%)、「仮説の構築能力」(53.1%)、「製品化のアイデアや計画を考える能力」(54.8%)といったものも評価が低く、これらを見ると英語と共に実践的な能力が不十分であると見られているようであった。

■企業による金沢高専卒業生の能力評価

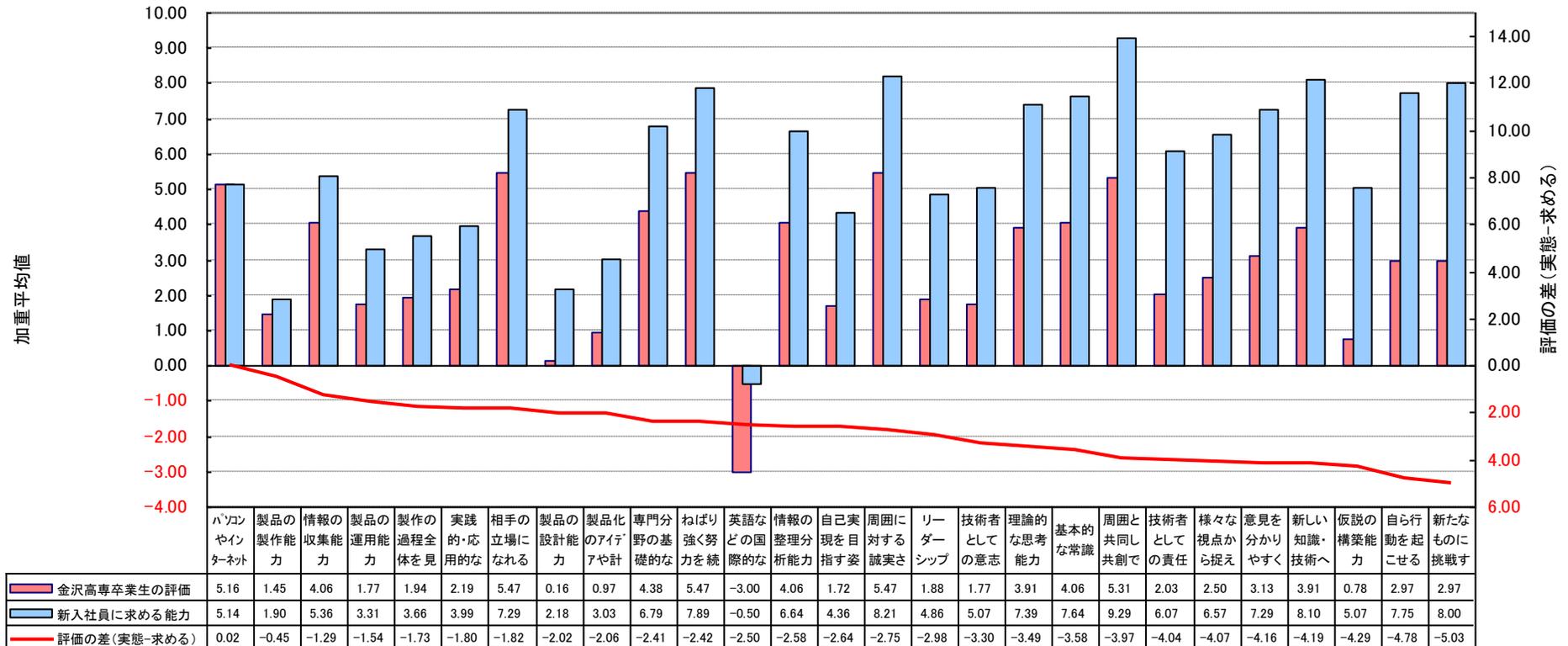


■ 満足している ■ 少し満足している □ あまり満足していない □ 満足していない

■企業が新入社員に求める能力と企業の卒業生評価の比較

- 企業には「新入社員に求める能力」と「金沢高専卒業生の評価」の2つを聞いているが、その差を見たところ下記のようなグラフになった。折れ線グラフは2つの指標の差を取ったもので、「金沢高専卒業生の評価」から「新入社員に求める能力」をマイナスしたものとなる。
- 「新入社員に求める能力」で最も高かったのは「周囲と共同し共創できるコミュニケーション能力」であり、次いで「周囲に対する誠実さ」「新しい知識・技術への知的好奇心」「新たなものに挑戦する活力」などが求められていた。
- 一方、最も求められていなかったのは「英語などの国際的なコミュニケーション能力」で、「製品の製作能力」「製品の設計能力」なども低めであり、英語力や実践能力はそれほど求められていないことが分かった。
- 求める能力と実態の差を見ると、「パソコンやインターネットの活用能力」はプラススコアで、求められる能力を実態がわずかに上回っていた。そして、「製品の製作能力」「情報の収集能力」「製品の運用能力」なども差が少なかった。そして、もっとも差があったのは「新たなものに挑戦する活力」であり、「自ら行動を起こせる自律性」「仮説の構築能力」といった積極的な姿勢についてもややかけているという評価であった。

■企業が新入社員に求める能力と企業の卒業生評価の比較

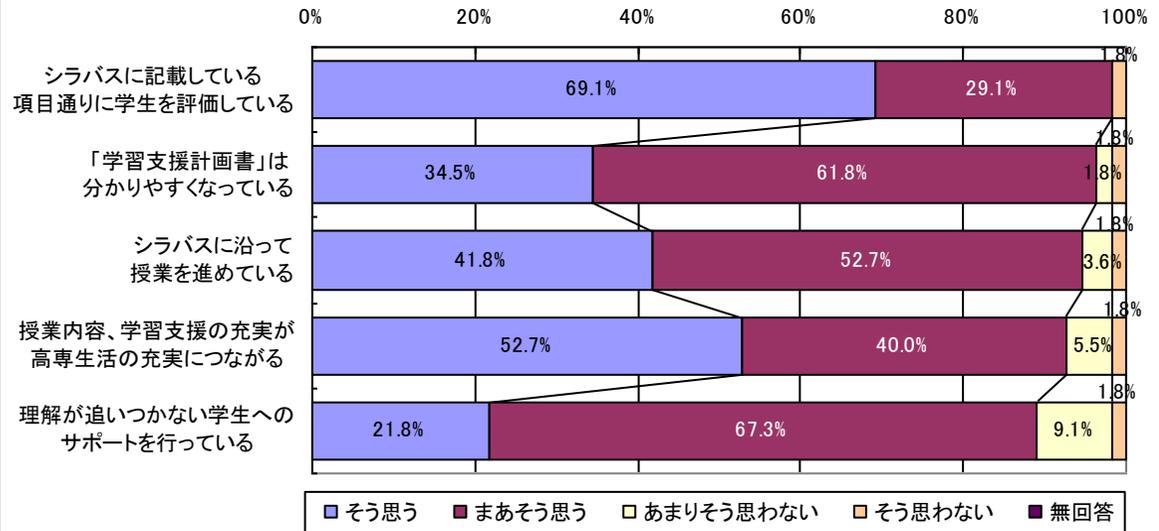


金沢高専の授業と教員業務に関して

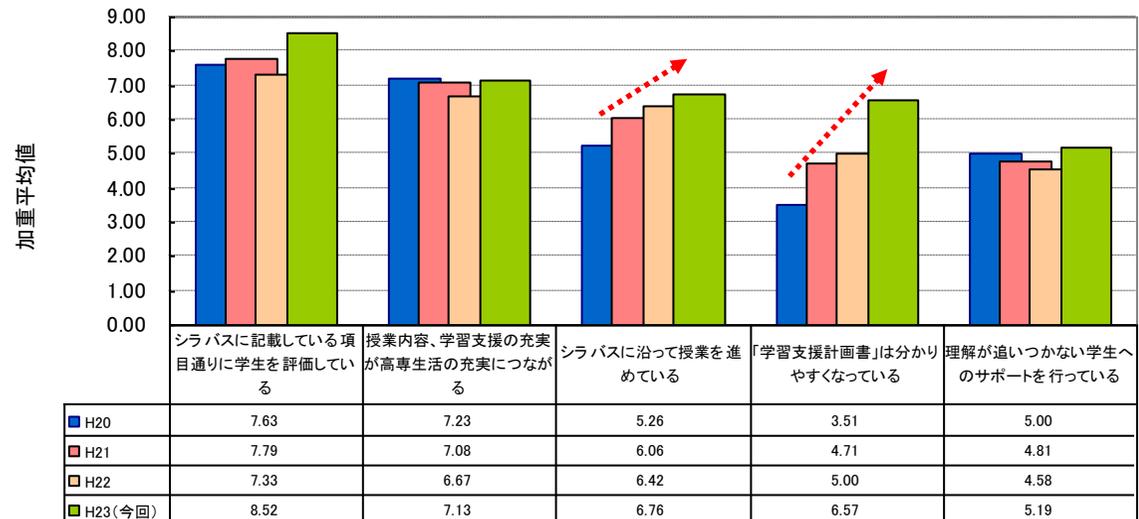
■教員の「授業および学習支援」の自己評価

- 教員に「授業および学習支援」の自己評価を聞いたところ、全体的に自己評価は高く、全ての項目でほぼ9割以上ができていたという回答であった。
- 最も高かったのは「シラバスに記載している項目通りに学生を評価している」であり、69.1%が「そう思う」であり、「まあそう思う」と合わせると98.2%が肯定的な意見であった。
- 上記に次いで「学習支援計画書は分かりやすくなっている」で96.3%、「シラバスに沿って授業を進めている」で94.5%が肯定的な意見であり、しっかりと授業が進められている様子がうかがえた。
- 年度別の比較では、全ての項目で前年の自己評価を上回っていた。
- 特に「シラバスに沿って授業を進めている」「学習支援計画書は分かりやすくなっている」の2項目はH20より継続的に肯定的な意見が増加しており、今回は「学習支援計画書」の改善が目立っていた。

■教員の「授業および学習支援」の自己評価



■教員の「授業および学習支援」の自己評価 年度別比較

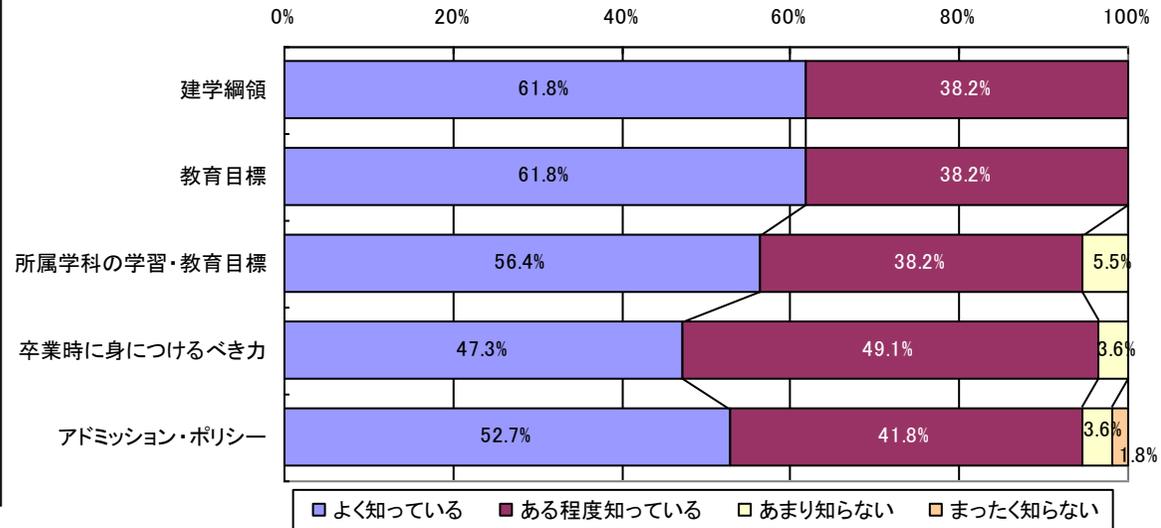


教職員の意識に関して

■教職員の「建学綱領」「教育目標」などに関する意識

- 今回から「建学綱領」「教育目標」などの認知度に関する質問を加えているが、それらを見ると全ての項目で、100%に近い認知度であった。
- 「建学綱領」と「教育目標」の回答は全く同じであり、「よく知っている」が61.8%、「ある程度知っている」が38.2%で、合わせると100%の認知度であった。
- 「所属学科の学習・教育目標」は94.6%、「卒業時に身につけるべき力」は96.4%、「アドミッション・ポリシー」は94.5%の認知度であり、認知度は全体的に非常に高かった。
- この質問は学生にも行っているが、「建学綱領」の認知度は33.1%、「教育目標」は50.9%、「所属学科の学習・教育目標」は51.7%、「卒業時に身につけるべき力」は53.3%という結果であった。

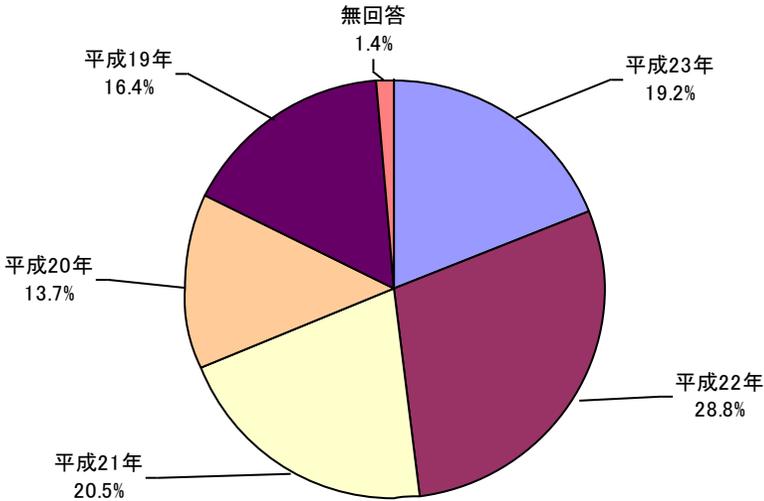
■「建学綱領」「教育目標」などに関する意識(教職員)



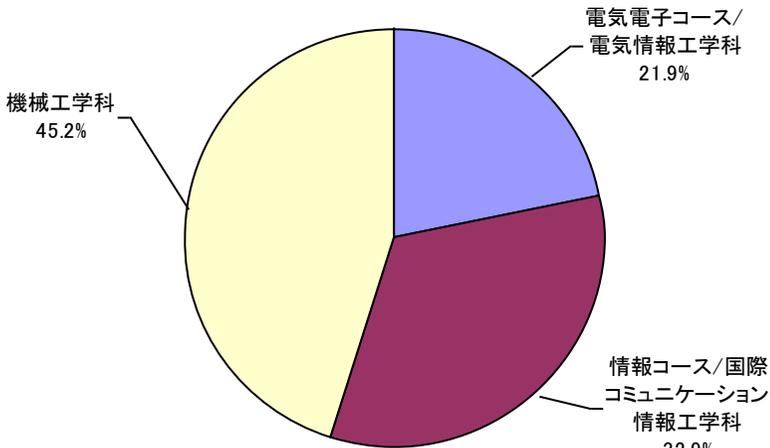
回答した卒業生の基本属性

■回答した卒業生(73名)の基本属性

■回答した卒業生の卒業年度



■回答した卒業生の所属学科



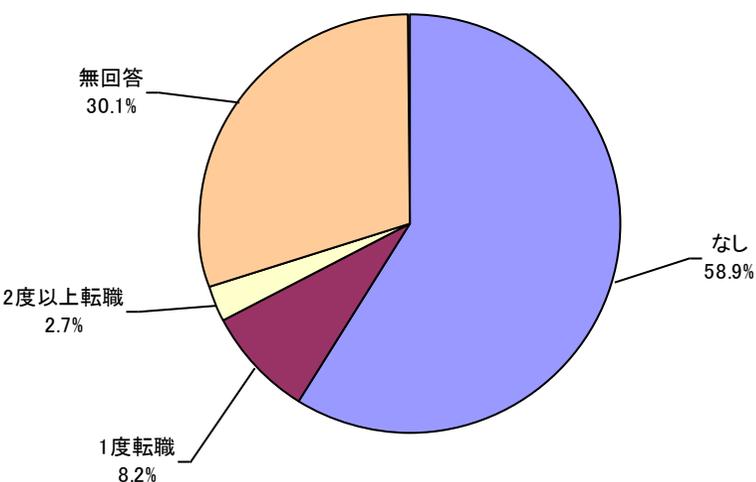
■卒業生の現在の職種

職種	割合
研究開発	4.1%
設計技術	2.7%
製造・生産技術	15.1%
品質管理	1.4%
建設施工管理	1.4%
コンピュータ開発(ハード・ソフト)	4.1%
コンピュータサービス(SE等)	6.8%
保安関係(電気設備・消防・警備保障)	4.1%
営業職	5.5%
事務職	4.1%
その他	12.3%
学生	37.0%
総計	100.0%

■卒業生の会社の業種

会社の業種	割合
建設業(総合・設備工事)	6.8%
製造業(鉄鋼、非鉄金属、金属機械)	5.5%
製造業(一般・電気・輸送用機器・精密機械)	20.5%
製造業(繊維、化学、木製品、その他)	2.7%
卸売・小売業、金融・保険業、不動産業	1.4%
運輸・通信業	2.7%
サービス業(コンピュータ・情報サービス)	8.2%
サービス業(設計、コンサルタント)	2.7%
サービス業(医療、教育、放送、その他)	5.5%
公務・非営利団体	1.4%
その他	4.1%
無回答	38.4%
総計	100.0%

■回答した卒業生の転職経験



■転職理由

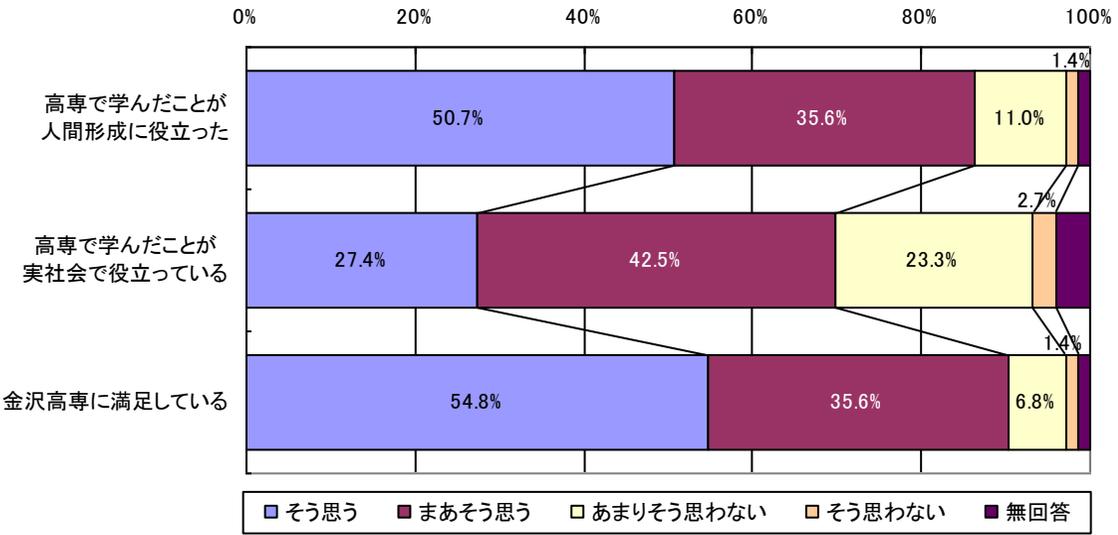
一身上の都合により。
1度目は退職勧奨 2度目は一身上の都合により
勤務時間、休日、給料があわなかった
リーマンショック等で会社が傾いた際の人員整理にて。
会社都合により。
体調を崩し、精神的にも追い込まれ、ひどい状態になったため、このままではいつか死ぬと思ったため。
過労

卒業生の金沢高専に関する評価

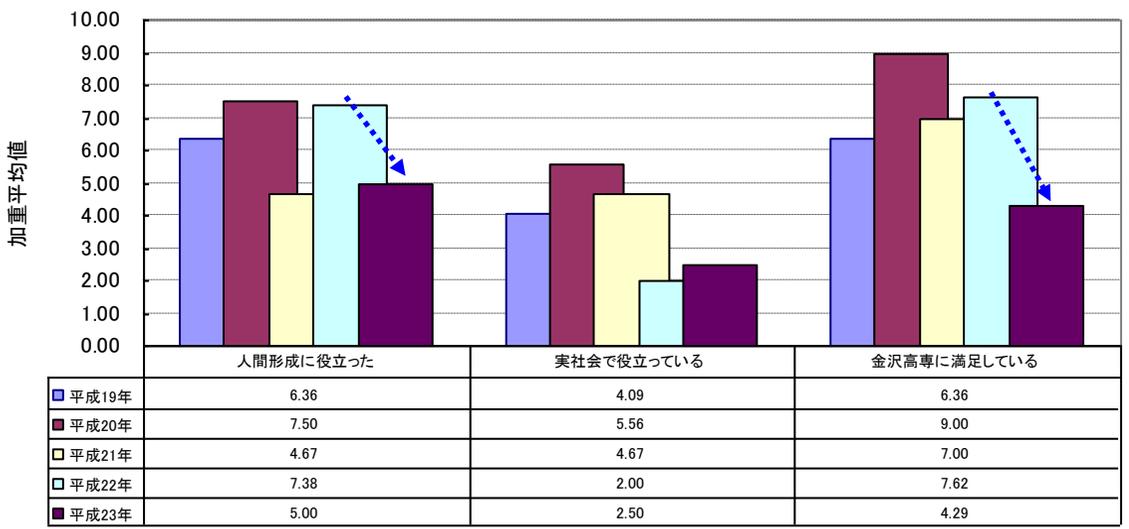
■卒業生の金沢高専に関する評価 卒業年度別比較

- 卒業生には金沢高専で学んだことがどのように役立ったかを聞いているが、「高専で学んだことが人間形成に役立った」では86.3%、「高専で学んだことが実社会で役立っている」では69.9%が肯定的な意見であった。
- 高専の総合的な評価である「金沢高専に満足している」では54.8%が「そう思う」、35.6%が「まあそう思う」であり、合わせると90.4%が満足しているという回答であった。
- 年度別の比較を見ると、「人間形成に役立った」では肯定的な意見が減少していたが、「実社会で役立っている」ではわずかに肯定的な意見が増加していた。
- 残念ながら「金沢高専に満足している」では前年より肯定的な意見が減少しており、H19以降で満足という回答が最も少ないという結果になっていた。

■卒業生の高専の評価



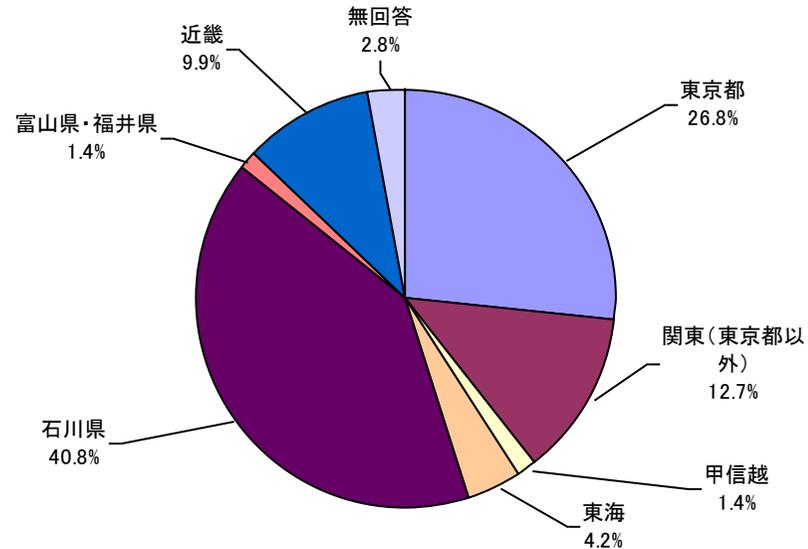
■卒業生の高専の評価 卒業年度別比較



回答した企業の基本属性

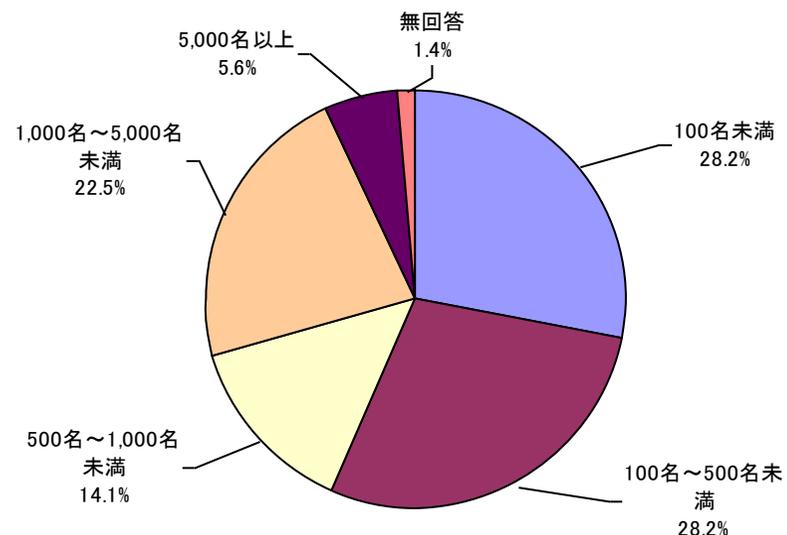
■回答があった企業(71社)の基本属性

■回答した企業の所在地



※「北海道・東北」「中国・四国・九州・沖縄」は該当無し

■回答した企業の従業員数



■回答した企業の業種

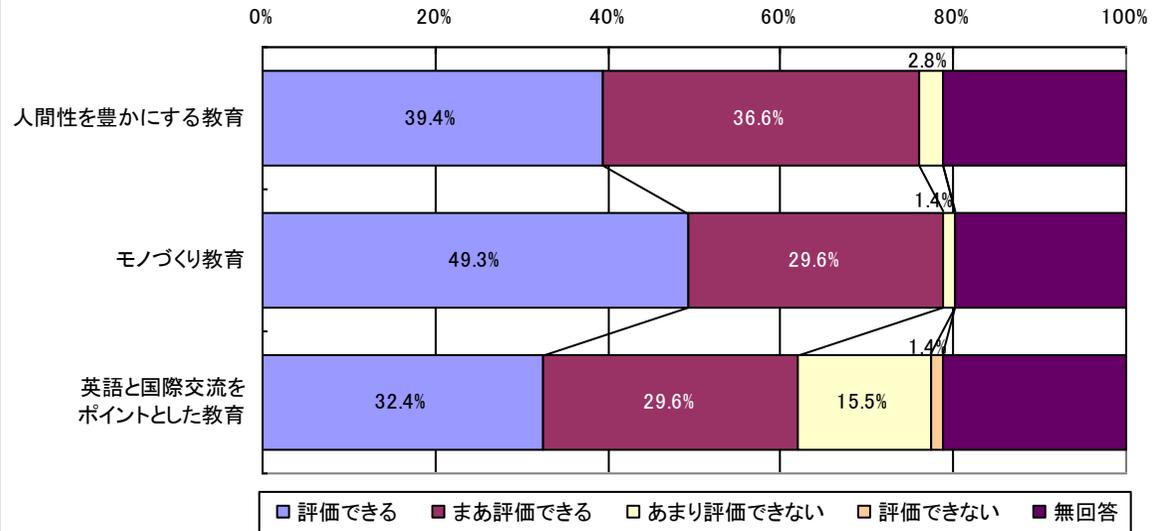
会社の業種	割合
建設業(総合・設備工事)	9.9%
製造業(鉄鋼、非鉄金属、金属機械)	15.5%
製造業(一般・電気・輸送用機器・精密機械)	29.6%
製造業(繊維、化学、木製品、その他)	9.9%
卸売・小売業、金融・保険業、不動産業	1.4%
サービス業(コンピュータ・情報サービス)	14.1%
サービス業(設計、コンサルタント)	1.4%
サービス業(医療、教育、放送、その他)	9.9%
公務・非営利団体	1.4%
その他	5.6%
無回答	1.4%
総計	100.0%

企業から見た金沢高専の教育の評価

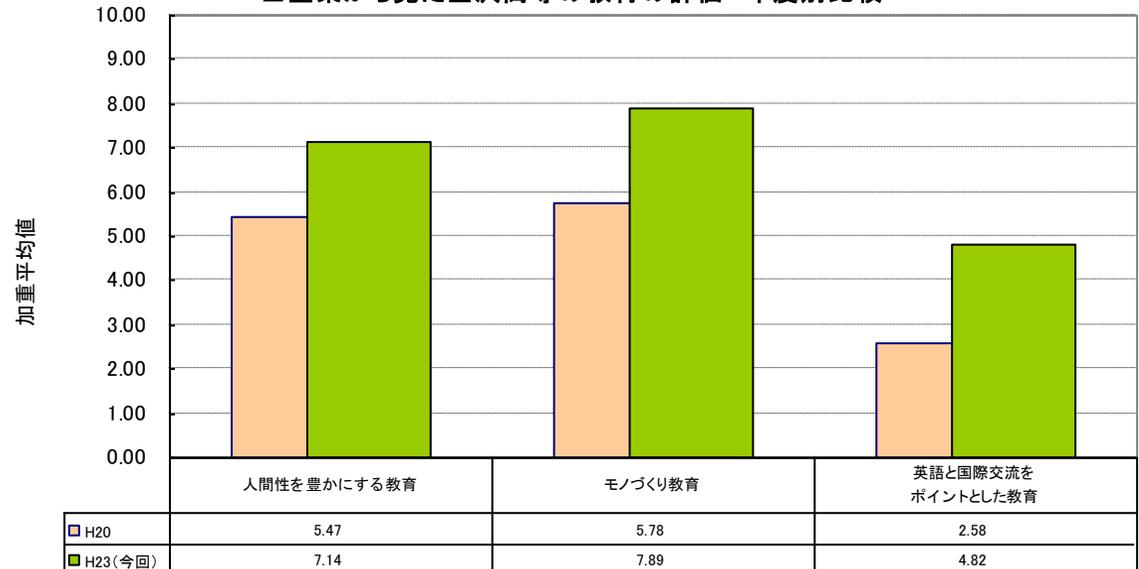
■企業から見た金沢高専の教育の評価

- 企業調査に対して「企業から見た金沢高専の教育の評価」を聞いているが、それらを見ると全体的に高い評価を得ていたと言える。
- 内容が分からないためか3つの質問共に「無回答」が2割程度を占めていたが、それ以外を見ると評価は高く、「モノづくり教育」では「評価できる」が49.3%、「まあ評価できる」が29.6%であり、評価できないという回答は1.4%と非常に少なかった。
- 上記に次いで「人間性を豊かにする教育」では肯定的な意見が76.0%と多かったが、「英語と国際交流をポイントとした教育」では「あまり評価できない」が15.5%、「評価できない」が1.4%でやや評価が低かった。
- この3項目は前回調査から聞いているが、評価の変化を見ると全ての項目で前回の評価を上回っていた。特に「英語と国際交流をポイントとした教育」は評価としては低いものの、前回の評価を大きく上回っていることが確認できた。
- H15にも同じような質問をしているが、その際は「教育を評価できるか」ではなく、「教育ができていないか」と聞いていたため、比較は行っていない。

■企業から見た金沢高専の教育の評価



■企業から見た金沢高専の教育の評価 年度別比較



全体の課題のまとめ

<学生の満足度や目的・目標志向に関して>

- ◆「総合満足度」と「目的・目標意識」が2年連続で低下しているという事実をしっかりと認識する必要がある。
- ◆学科では「機械」、クラスでは「5年生の機械系」、学生群では「現4年生」が良い状態にあり、その要因を探ることでヒントが見える可能性がある。
- ◆「専門分野」「モノづくり」「力が付いたことの実感」「教員との関係」「クラスの状況」など、満足度が高まるいくつかのポイントが見られ、これを継続的に見ていく必要がある。

「電気系」の動機づけがどのようになされているのかが見えない点が気になった。(資格?)

<授業・学習サポートに関して>

- ◆「モノづくり教育」の成果・評価が上がってきているようであり、しっかりと効果測定を行っておく必要がある。
- ◆英語に対する期待の違いもあるが、「英語教育」に課題があるのではないかとわれ、現状把握と対処が必要になってきていると思われた。
- ◆教員とのコミュニケーションの評価が下がっており、特に満足度の低い「2年生」で低いため、相関を考え、実態を把握しておく必要があると思われる。

「モノづくり教育」が確立され、内外から認知されて効果を上げていると思われる。

「英語教育」は学生ニーズとのアンマッチがあり、空回りしている部分があるのではないかとわれ。

「専門性が高い」「力が付く」「教員との良い関係」「クラスの雰囲気が良い」など、満足度を左右するキーワードが現れてきた。

<学校での過ごし方に関して>

- ◆「クラスの状態」は悪くないものの、前年よりわずかに悪くなっており、実態を把握しておく必要があると思われる。
- ◆「機械」が「モノづくり」に積極的に取り組んでおり、「国情・グローバル」はクラスのまとめや雰囲気課題がみられ、この点はインタビューなどで掘り下げる必要があると思われる。
- ◆「情報の伝達」が全クラスで統一されていない様子が見られた。情報不足が不満を招いている可能性もあり、しっかり統一する必要があると思われる。

<その他の環境に関して>

- ◆「就職・進学支援」に関して不満を持った学生が2割見られたが、その不満を把握して対処する必要がある。
- ◆企業の卒業生評価は高く、これらの評価を上手く活用することで在學生に目的意識を持たせることができるのではないかとわれ。
- ◆「建学綱領」「教育目標」などの認知度は低く、認知度を上げるためにはしっかりとした広報策を検討する必要があると思われる。

「現4年生」「5年生の機械系」など、学生群によって特徴があるが、クラスによる差も大きく、クラス毎の対処が必要な点もあると思われる。

<在學生以外の意見に関して>

- ◆教職員の忙しさは年々増しており、実態を把握して対処する必要がある。
- ◆卒業生のKTC満足度は低くないものの、低下が見られた。この点も実態を把握する必要があると思われる。
- ◆企業からも「モノづくり教育」は高く評価されているが、「英語と国際交流」の評価はやや低かった。

教職員の忙しさが年々増えている点が気になった。

平成23年度

KTC総合アンケート調査結果[報告書]

- 発行日 平成24年6月18日
- 発行者 金沢工業高等専門学校
- 調査票設計・分析 有限会社 アイ・ポイント
- 編集 金沢工業大学企画部CS室

無断複製厳禁